



発刊に当たって

北本市長 石津賢治

北本市は、埼玉県の中央部に位置し、大宮台地上のほぼ平坦な地形となっており、高崎線の北本駅を中心に市街地が形成されています。その外側には緑豊かな田園地帯が広がり、市域の西側には荒川が流れ、国の天然記念物に指定された樹齢約800年の「石戸蒲サクラ」を始め、大宮台地の浸食により形成された谷津に昔ながらの湧水や斜面林、コナラやクヌギの雑木林など魅力ある豊かな自然を残しています。

昭和46年に県下33番目の市として誕生した北本市は、本年、市制施行40周年を迎えます。この間、首都圏45km圏内で、都心まで45分という好条件から人口も急増し、首都近郊の住宅都市として発展してきました。

そして、市が誘致を進めてきた「関東グリコ株式会社北本ファクトリー」の建設や首都圏中央連絡自動車道「桶川北本インターチェンジ」の開通など、本市は今まさに新たな飛躍に向けて歩み始めたところです。

今後も、先人たちが築き、守ってきた歴史と文化と豊かな自然を次世代へと継承するとともに、市民の皆様と行政との協働を基本理念に「優しさ」と活気に満ちたまちへ、「未来をはぐくむ北本へ」、「約束が守られる安心・安全なまちへ」の3本の柱をまちづくりの基本目標として、市民の皆様が夢と希望を持ち、「ずっと暮らし続けたい」と思えるまちづくりに全力で取り組んでまいります。

このたび、これまでのまちづくりの取り組みや本市の歩みと現在の姿、そして市民が積極的にまちづくりにかかわる姿を紹介する市勢要覧を発行いたしました。この冊子をご覧ください、わたしたちのまち北本市に一層のご理解と愛着を深めていただければ幸いです。

市制施行40周年を迎えた北本市は、
未来を拓くまちづくりを目指して
新たなスタートラインに立ちました。

きたもとトピックス7

2

特集Ⅰ REPORT “北本の市民力”

5

- ① 安心して、暮らす。 6
- ② 学ぶ、楽しむ。 8
- ③ 子育てを、応援する。 10
- ④ みどりを、守る。 12
- ⑤ にぎわいを、つくる。 14
- ⑥ みんなが、参加する。 16

きたもとの風景 - 季節の移ろい -

18

特集Ⅱ 未来へ導く 北本人のチャレンジ精神

22

- 「陸の道」で運ばれた情報と文化 23
- 「舟の道」で運ばれた経済力 24
- 情報収集力と経済力が生んだ一大プロジェクト 25
- 「北本トマト」から広がるまちおこし 29
- 座談会 どこへ向かう？北本人のチャレンジ精神！ 30

北本のあゆみ

32

数字で知る 北本って、こんなまち

34

行政・議会

40

On the Occasion of Publication
Kenji Ishizu, Mayor of Kitamoto City

Kitamoto City is located around the center of Saitama. It started in 1971 as the 33rd city in Saitama, and is going to celebrate its 40th anniversary this year. The city, with the population of approximately 70 thousand people, has been developed as a residential town near the capital city. Our city is surrounded by rich and attractive natural environment, including approximately 800-year-old Ishito Kabazakura (Ishito Kaba cherry tree) and grove in Musashino. We are making a concerted effort to make the city where the citizens live with dreams and hopes and prefer to live forever.

03 市民に開かれた新市庁舎と、子育て支援の拠点を 新市庁舎・(仮称)こどもプラザの整備

現市庁舎は、老朽化により耐震性能の不足による倒壊や崩壊等の危険が指摘されています。そこで、災害時の防災拠点としての機能の確保や市民サービスの向上のために庁舎の建て替えが検討され、市民参画のもとに基本設計の検討を行っています。

新市庁舎と同じ敷地内に計画されている(仮称)こどもプラザは、子育て支援センターの機能を備えた児童館、こども図書館を併設した複合施設として、平成26年度の開館を目指しています。それぞれの施設が持つ機能が相乗効果を発揮し、北本の子育て支援の拠点施設として利用されることが期待されます。



新市庁舎・(仮称)こどもプラザの完成予想図

Improvement of a new city hall and Children's Plaza (tentative name)

Due to the low seismic performance of the existing city hall building, the risks of the building to be collapsed had been frequently pointed out. Accordingly, reconstruction of the city hall was proposed for the purpose of ensuring functions of disaster management base at the time of disaster outbreak and improvement of services for the citizens. The basic design is considered in consultation with the citizens. On the premises, Children's Plaza (tentative name) which has a children's library is also planned.

04 子育てや教育環境の充実を目指して 中核保育所の設置・小中学校大規模改修・中学校の給食自校方式

待機児童ゼロを目指して整備されている(仮称)中核保育所は、平成24年4月に開所予定です。病後児保育事業及び一時保育事業の実施、子育て支援センターの併設など総合的な地域子育ての拠点施設となります。

安全安心な教育環境をつくるために行っているのが、小中学校の校舎及び屋内運動場の耐震補強・大規模改修工事です。教室のエアコン整備や太陽光パネルの設置、小学校のプール改修では低学年用の浅いコースの整備やプールサイドが熱くならない塗装なども行いました。そのほか老朽化したパソコンの入れ替えも行いました。

給食は、学校生活において欠くことのできない重要な食育の場です。これまで小学校は自校で、中学校は給食センターで作られてきましたが、平成25年度より中学校でも自校方式に切り替えます。



耐震補強工事が完了した北本中学校の校舎

Improvement in childrearing and educational environment.

The core day-care center (tentative name) is scheduled to be open in 2012. It will be a base facility of comprehensive childrearing in the community. In order to ensure safe and secure educational environment, antiseismic reinforcement/large-scale refurbishment works of primary/lower secondary school buildings are progressing. In 2013, school lunch system for lower secondary school students will be switched to the one in which lunch for a school's own students is prepared inside that school.

きたもとトピックス



だれもが暮らしやすく、暮らし続けたいと思うまちを目指して、現在進行中、あるいは構想中のさまざまな取り組みをご紹介します。

01 新しい雇用の場、産業観光施設として期待！ 北本ファクトリーの誕生

企業誘致は、地域経済が活性化し、地域住民の雇用を拡大するとともに、長期的な市税の増収が見込め、市のイメージアップにもつながります。

中丸9丁目に誘致した関東グリコ株式会社北本ファクトリーは、平成24年春、稼働を開始します。建物の断熱性と省電力に優れ、環境にも配慮された最新鋭の工場で、市では多くの人の雇用を見込んでいます。また、工場見学施設も併設されることから、お菓子作りの見学を通して、子どもたちに夢を与える施設となることも期待されています。

市では同工場の誘致を誘い水として、圏央道インターチェンジ周辺などが産業拠点となるよう、さらなる企業誘致を進めています。



中丸に誘致した関東グリコ株式会社北本ファクトリー

Improvement of Kitamoto Factory

Attraction of enterprises will lead to revitalization of regional economy, expansion of employment opportunities, increased tax revenue, and improvement of the city image. Kanto Glico Kitamoto Factory will start operation in the spring of 2012. Making the most of the opportunity of the new factory construction, the city is making further efforts to attract more enterprises.

02 北本の知名度アップに貢献、企業や観光客の誘致にも 圏央道桶川北本I.Cの開通

圏央道(首都圏中央連絡自動車道)は、神奈川県、東京都、埼玉県、茨城県、千葉県を結ぶ延長約300kmの環状道路として、平成26年度の開通を目標に建設が進められており、平成22年3月に桶川北本インターチェンジが開通しました。

首都圏からのアクセスが格段に向上したことから、企業誘致や、観光客の誘致、人口増加、知名度のアップなどが期待されています。これを機に交流人口を増やすために、複数の工場見学等をつらやまして「きたもと工場探検事業」や、本市の自然環境や歴史的資産と合わせたパッケージツアーなどの構想も進められています。



平成22年に開通した圏央道桶川北本インターチェンジ

Opening of Okegawa Kitamoto Interchange of Ken-O Expressway

Ken-O Expressway (Metropolitan Inter-City Expressway) is under construction as a ring road linking areas around Tokyo with total extension of approximately 300 km. In March 2010, Okegawa Kitamoto Interchange was opened. It is expected that Kitamoto will be popular and be able to attract more enterprises and tourists.



特集 I

REPORT “北本の市民力”

平成22年4月1日、
「北本市自治基本条例」が施行されました。
これは、市民が主役となって、
よりよいまちづくりを進めるために制定したものです。
自分の住むまちを自分たちの手でよくしていこうと、
がんばっている“北本の市民力”を
さまざまな現場からレポートします。



平成23年度末完成予定の「北本みずべひろば」完成予想図

05 川の自然に親しめる広場を整備 「北本みずべひろば」の開設

平成23年度末の完成を目指して高尾9丁目地先に整備中の多目的広場は、国の直轄河川事業としては全国初のネーミングライツにより「三国ココ・コーラボトリング北本みずべひろば」と命名されました。北本市と同社、国土交通省関東整備局荒川上流河川事務所との三者が公民連携基本協定を締結したもので、同社はこの公園の維持管理に要する費用の一部を負担するとともに、社会貢献活動等を行うことになっています。

企業と行政の連携により、人々が、荒川に親しみ、自然環境、水資源の大切さを体験できる拠点づくり、地域の活性化を図る場づくりとして期待されています。

Opening of Kitamoto-mizube-hiroba (Kitamoto waterfront square)

A multipurpose square that was planned to be completed on Arakawa River terrace in 2012 was named as Mikuni Coca-Cola Bottling Kitamoto-mizube-hiroba by the nation's first naming rights agreement. The square is expected to be a place for regional revitalization by collaboration between private businesses and public administration.



空から見た石戸城跡
(写真提供：北本市教育委員会)

06 戦国のロマンを伝える伝説の城を再現 石戸城跡展望広場の整備

石戸城は室町時代中頃に築城されたと考えられる北足立地方最大の城跡です。北条、太田、上杉などの戦国大名たちの歴史上の舞台となり、永禄6年(1563)には上杉謙信が逗留しています。また、「関八州古戦録」中には鉢形城寄居町の北条氏邦との戦乱の様子が伝えられており、現在「一夜堤」の伝説として当地にも説話が残ります。

城域は約60,000㎡に及び、埼玉県的重要遺跡にも選定されています。その遺構の一部を公開し、そこから臨むことができたであろう眺望を再現するために「石戸城跡展望広場」の整備が計画されています。完成すれば、本市の重要な観光資源の一つとなることでしょう。

Improvement of the observation square of Ishito Castle ruin

Ishito Castle was thought to be constructed in the 16th century. The area of the castle premises amounts to approximately 60,000 m². The Ishito Castle ruin is designated as one of Saitama's important remains. It is planned to improve a part of the castle ruin as Ishito Castle observation square and open it to the public.



北本の観光シンボル「石戸蒲ザクラ」

07 日本五大桜にも数えられた伝説の名木を観光資源に 石戸蒲ザクラ

石戸蒲ザクラは、大正11年に国の指定を受けた樹齢約800年の天然記念物です。当時はかなりの巨木で、福島県三春の滝桜、山梨県山高の神代桜、岐阜県根尾谷の淡墨桜、静岡県狩宿の下馬桜とともに日本五大桜の一つに数えられました。現在は孫生えも伸長し、樹勢も良好です。樹種は、和名「カバザクラ」という世界でただ1本の大変貴重な品種で、毎年4月10日前後が花の見頃です。

また、蒲ザクラには、源頼朝と源義経の異母兄弟であり、蒲冠者と呼ばれた源範頼という武将にまつわる伝説が残され、江戸時代には多くの文人が訪れました。

その名木を「観光100万人都市」を目標に掲げた本市の観光のシンボルとして、さらなるPRに努めています。

Ishito-kaba-zakura (Ishito-kaba cherry tree)

Ishito-kaba-zakura, aged approximately 800 years, is the state's designated natural treasure. It is also one of Japan's five major cherry trees, being the only one tree of the precious variety with Japanese name of *Kabazakura* existing in the world. The cherry tree is mentioned in the legend of a feudal era's warrior. Active PR activities utilizing the cherry tree as the city's tourism symbol will be further carried out.

安心して暮らす。

災害に強いまち、安心・安全な暮らしづくりを市民が主体となつて進めています。

北本市消防団 01

まちと市民を守るといふ強い責任感でつながる

北本市消防団は消防組織法に基づいて設置され、6個分団から成り総勢135人、各地域の市民で構成されています。常備消防の隊員とは違い、普段はそれぞれ別の仕事に従事しながら、災害が発生した場合は現場に直行し、常備消防と協力して鎮圧にかかります。

「ボランティアというよりも、市民の責務として活動する」という意識が強いんですね」と言うのは団長の道祖土友光さん。通常のボランティア団体と違って特殊任務のため、訓練を行い、技術・知識等を高めなければ、現場で二次災害になってしまう恐れがあります。また、いざというときにはプライベートを二の



常備消防の救助隊員の補助を受けて、レスキュー体験をする子どもたち



自然災害の少ない北本市だが火災は年間約20件発生。延焼を防ぐために初期消火が重要となる

北本市交通指導員会 02

登校する子どもたちの安全を守る

交通指導員は、公募により市から委嘱された30人の市民で構

北本市交通安全会 03

いざというときに備えた、自主的な助け合い

北本市交通安全会は、平成11年に自主防災会をつくりました。これは、平成7年に起きた阪神淡路大震災の教訓を生かし、いざというときに、まとまって活動しやすいように、団地を5つの区域に分けてつくった自主的な助け合い組織です。棟ごとに各階の居住者が給食給水班、避難誘導班、救出救護班、消火班、情報連絡班と、役割を分担しています。

毎年9月には居住者参加の自主防災訓練を催し、避難・誘導や初期消火、救急救護、炊き出しなどの訓練を行います。また、AEDの使い方、災害用伝言ダイヤル体験、防災グッズの展示販売などもあわせて行い、防災意識の向上に努めています。

「実際にガスコンロにかけたナベから出火したが、訓練を受けていたおかげで落ち着いて消火できたという人もいます。日ごろの備えと訓練が何より大切ですね」と林信好副会長。

東日本大震災を受けて、ますます自主防災の大切さが叫ばれる昨今、佐藤利彦会長は「団地



赤と白の指導員棒を手に、登校時の安全を守る交通指導員。子どもたちの元気なあいさつが励みになる

成されています。70歳以下の健康な人で、平日の朝8時までと休日に時間の都合がつくことが条件です。警察の講習を受けて、子どもたちが登校する時間に交通量の多い危険な交差点に立ち、安全通行のための交通整理や誘導を行います。その他、お祭りやイベントなどでも交通整理を行っています。

「雨でも、雪でも、台風でも、学校のある日は必ず立ちますよ。子どもたちの顔を見ると、やってよかったと思います」と会長の伊藤治さん。規則正しくメリハリのある生活が送れることも、よかったことの一つと



初期消火訓練でバケツリレーをする住民たち。いざというときにあわてないよう真剣に取り組む



5階の踊り場からハシゴ車を使っての救出訓練。手順を知っておけば、パニックを避けられる

の高齢化が進み、一人暮らしの高齢者をどう守っていくか、いざとなったら誰がどこに駆けつけるかを考えておくことが、これからの課題ですね」と語りま

Kitamoto City Volunteer Fire Corps
The Volunteer Fire Corps consists of 135 citizens, each of whom has another job on ordinary days. When a disaster occurs, they immediately come to the disaster site to bring the affected site under control in cooperation with the firefighting officers. The pride and responsibility taken by these individuals in protecting people's safety further strengthens the volunteer fire fighters' solidarity.

Road Crossing Guard Association
The Road Crossing Guard Association consists of 30 citizens who are commissioned by the City. They stand at dangerous intersections in the city to assist children going to school, to regulate traffic, and to guide children. They regulate traffic at the festivals and events.

Kitamoto Apartment Complex Federation Voluntary Disaster Management Society
The Kitamoto Apartment Complex Neighborhood Community Association established a voluntary disaster management society in 1999. It is a mutual help organization established at each of the five sections of the apartment complex so that citizens can easily act collectively in the event of an emergency. Every year, a voluntary disaster response drill is carried out in order to provide training on evacuation/guidance, fire extinction at an early stage, first aid, preparing hot meals outdoors, etc.



子ども用の防火服を着て消防車から放水する「子ども放水体験」。放水圧力の強さに驚きながらも、消防団員に助けられて必死にホースを持つ子どもたち



早川澄雄さんが開設している「そば打ち講座」は抽選で受講者を決定するほどの人気。本格的な技術を学ぼうと男性の受講者も多く集まる



文化センターのホワイエを利用した「サロンコンサート」は、気軽に質の高い音楽を味わえることで毎回大盛況となっている



初心者を対象とした「ヒップホップダンス講座」は、小学生から60代まで世代を超えて楽しく学んでいる

「学びたいあなた」と「教えたいあなた」を結び市民が主役の学びの場

市民教授と学苑生が協力して運営する「市民大学きたもと学苑」（通称キタガク）は、平成19年に設立されました。人材図書館制度を活用して実施されている「市民カレッジ」をさらに進め、市民教授が講座の企画から実施に至るまで携わるとともに、受益者負担による運営方式を採用した、まさに市民が主役の学び舎です。現在、20代前半から80代まで90以上の市民教授が講座を開き、毎年1千人を超える学苑生が学んでいます。

市民大学 きたもと 学苑

02



脳科学に基づいたアートカリキュラム「脳いきいき！アート講座」。味やにおいなど五感を働かせてイメージを描く

キタガクに集う市民は、学苑生にも市民教授にも立場を変えて活動できるのも特徴です。音楽や体操・芸術・料理など楽しむ講座と、地域学の講座、キャリアを付ける講座という3本柱で、年間130講座以上開かれています。

「全国に誇れる生涯学習システムです」と語るのは理事長の樋口秀夫さん。「受益者負担に最初は抵抗のある人もいましたが、今はずいぶん理解が進みました。教えたいと思えば、いくらでも講座が開けることがキタガクのいいところです」。コーラスやリトミックなど人気講座を受け持つ理事の岩田俊子さんの夢は「キタガク独自の校舎ができること」。そば・うどん講座を開く事務局長の早川澄雄さんは「これからは教える人を育てるのも重要ですね」と夢を語ります。

Citizens' College Kitamoto Academy

Kitamoto Academy, called *Kitagaku*, is run by citizen professors and citizen students in cooperation. Citizen professors are involved in every stage of the program from seminar planning to its implementation. In addition, the college has adopted a management system of payment by beneficiaries. Ninety or more citizen professors offer seminars, and more than one thousand students participate in the seminars every year. Citizens can carry out activities either as professors or as students, depending on the program.

Developing a community abundant in music

Kitamoto City concluded an agreement on liaison in music and cultural projects with the Tokyo College of Music in 2010. Various projects are provided, including the Kitamoto Piano Contest, aiming at developing the quality of music culture, the School Class Concert, designed to allow children to experience the joy of classic music, and the Kitamoto Amateur Band Festival.

音楽の あふれる まちづくり

01

画期的な試み！ 東京音楽大学との連携

北本市は、音楽や芸術など文化による教育が必要であるという考えのもと、平成22年に東京音楽大学と「音楽文化事業の連携に関する協定」を結びました。地域の異なる自治体と大学が連携協定を結ぶという画期的な試みです。

きっかけは、平成16年から始まった北本ピアノコンクールの運営に、同大学が開催当初から関わってきたこと。今後市民と学生が互いに交流できるサロンコンサートや大学の公開セミナーなどを開催する予定で、連携を機に「音楽のあふれるまちづくり」がさらに進むことが期待されています。

学ぶ、楽しむ。

音楽による文化事業や市民大学など、夢を語り、学び合う姿がまちの可能性を広げています。

音楽ファンの裾野を 広げるさまざまな 取り組み

北本ピアノコンクールは、他の市町村にない質の高い文化事業を目指して始まりました。年々演奏レベルが上がり、今では全国的にも有名なコンクールです。「優勝者は東京フィルハーモニー交響楽団と共演できるということで、全国から注目されています」と語るのは、当初からボランティアとして関わっているピアノ指導者の大原慧子さん。大原さんは、文化センターのホワイエを利用したサロンコンサートの司会を務めたり、学校教育課との協働で子どもたちにクラシックの楽しさを知ってもらうための学校クラスコンサートを行ったりといった活動も続けています。「1人のプロより100人のアマチュアを育てたい」というのが大原さんの願いです。

一方、さまざまなジャンルの音楽でまちの活性化を図ろうと



さまざまなジャンルのバンドが集う「きたもとアマチュアバンドフェスティバル」。出演者の選考に困るほど年々レベルが上がってきている

というのが、きたもとアマチュアバンドフェスティバル。団塊の世代をターゲットにおやじバンドの発表の場として平成21年から始まりました。今では、老若男女を問わず楽しめるイベントになりつつあります。実行委員の小林真人さんは、「子どもたちから高齢者まで、音楽の楽しみを共有できる場にして、北本の顔になるようなイベントにしていきたい」と抱負を語ります。



生後4カ月の赤ちゃんもボランティアさんの語りかける声に耳を傾け、食い入るように絵本を見る

と、地域のみんなで子育てを応援するという二つの意味があります」と語るのは、子ども文庫連絡会代表の藤本富美子さん。「心を込めて読んでいることが、赤ちゃんにはちゃんと通じている。そういうゆったりした時間をお父さん、お母さんに持つてほしい」と話します。

また、子どもの本を楽しむ会の藤山規子さんは「赤ちゃんが喜ぶ反応を見るのが楽しい。親子のコミュニケーションがうまくいかなんで悲しいでることが発生しているの、少しでも手伝いができれば」と願っています。



Coccoひろばのランチタイム。お弁当を食べながら育児情報の交換をするのは楽しいと話すママたち。お友達といっしょだと子どもたちの食も進む



放課後を楽しく過ごす子どもたち。年齢や障害の度合いに違いがあるため、子ども2人にスタッフ1人の割合。学生や地域の人たちがボランティアで手伝うこともある



バリアフリーに改築された施設には和室もあり、子どもたちはのびのびと自由に過ごせる

集団で楽しく遊び、心豊かな放課後を
「すきっぷ」は、障害者手帳を持つ小・中・高校生を対象とした学童保育室です。平成19年に栄小学校の余裕教室2教室をバリアフリーに改築して専用施設が完成。余裕教室を利用した専用施設は県内初で、他市町村のモデルケースともなっています。

23年度から、市内の障害を持つ子どもたちの保護者を中心としたNPO法人すきっぷが、指定管理者として運営。現在22名の子どもたちと10名のスタッフが、放課後や長期休業中に利用しています。
施設が存在が知られるようになる、大学のインターンシップやボランティアの申し込みも増えてきました。理事長の島田尚子さんは「今までは自分たちのことだけで精一杯だったのが、自分たちがまわりに役立つ存在になっていることがうれし。これからも地域との交流を持つていきたい」と語ります。

“Skip,” Kitamoto City After-school care for children with disabilities

This is an after-school care room for children with disabilities. The specialized barrier-free facility was completed in 2007 by refurbishing vacant classrooms of an elementary school. NPO Skip, which consists of the children's guardians, runs the care room as the designated manager.

Bookstart project

Bookstart is a project that offers a picture book with a message to children who have received an infant checkup and their parents. Citizens volunteer for the project. The project is significant for two reasons: it supports parents and children enjoying their time together; and it supports child rearing by the whole community.

Child-rearing support base in the community

A child-rearing support base has opened in four places as a space for children and their parents who are engaged in child rearing. The bases are managed directly by the city or through cooperation between the city and private organizations, and parents and their infant/toddler children can meet freely. The children enjoy playing, and parents can exchange child-rearing tips.

児童
障害
学童
保育
「すきっぷ」
03

地域
子育て
支援
拠点
01

子育て親子が集い、気軽にふれあえる場

子育て中の親子のふれあいの場として、市直営あるいは民間団体との協働で開設している「地域子育て支援拠点」が市内に4カ所あります。乳幼児を持つ親子が自由に集い、子育て情報を交換したり、子どもたちが楽しく遊んだりしています。
大型スーパーの店内にある民間主体の「Coccoひろば」は週3日開設しています。ランチタイムを開放しているの、お弁当を持って1日過ごすこともできます。一方、市直営の保育ステーション「ママ&キッズサロン」は駅ビル内にあり、平日は毎日開いていることから、市街地はもちろん電車を利用する人にも便利です。「スタッフ



駅ビル内にあるママ&キッズサロン。広いフロアはのびのび遊べるので、子どもたちもごきげん

子育てを、応援する。
民間と行政が手をつないで子どもたちの健やかな成長を応援しています。

が常駐しているので安心」「ママ友達ができて情報を得られる」と利用者から好評です。父親の育児参加を促すために、市と民間との協働で父親のための育児講座も開きました。
4つの支援拠点のほかにも、公立保育所のあそぼう会や各区の公民館などでも、市民ボランティアも参加して、子育て中の親子を応援する取り組みが行われています。

ブック
スタート
事業
02

絵本を通して親子のふれあいを深めよう

子どもは、保護者が優しく抱いて、肌のぬくもりを感じさせながら優しい言葉を聞かせることで、豊かな心を持ちます。また、毎日子育てに追われている保護者にとっても、安らぎのひとつになります。市では、平成16年から、乳児健診を受けたお子さんと保護者に、メッセージを添えて絵本をプレゼントする「ブックスタート事業」を実施しています。
この事業にボランティアとして関わっているのは「北本市子ども文庫連絡会」「北本市子どもの本を楽しむ会」の有志のみなさん。「親子のかけがえのないひとときを応援するということ



林の下草刈りや枝打ちなど定期的に行われる手入れ作業には、中学生たちボランティアも参加する

北本雑木の会 02

市街地に残る
貴重な雑木林を守りたい

「北本雑木林の会」は、市街地での雑木林の保全活動を通して緑のまちづくりを目指す市民団体です。市街地に残る6つの林（平成23年現在）の維持管理と、北本中央緑地の指定管理者として活動しています。平成3年に4世帯8人で始めた活動が、現在では正会員25人、賛助会員28人です。毎月清掃や枝打ちなどの作業を行うほか、森のコンサートや自然観察会などのイベントも年に数回行っています。会長の白川学さんは「20年前



木を渡しただけの簡単な遊具でも、雑木林は子どもたちの冒険心をかきたてる

林には困りがあったって、中は不法投棄のごみだらけでした。地主さんに困りを取ってもらい、ごみを片付け、下草を刈ったら、子どもたちが遊べる林がよみがえりました。市街地の平地林は県内でもとても貴重。地主さんの理解のもと、市とボランティアの三者が協定を結び、県がバックアップする市民管理協定制度を使って、今残っている林をすべて市民緑地にしたい」と熱く語ります。

白川さんたちは今、杉林の地主さんから杉の木をゆずってもらい、手作りでログハウスの事務所をつくらうと取り組んでいます。みんなが気軽に集まれる場所ができれば、テラスでミニコンサートを催したり、木工教室やカフェを開いたり、森の結婚式や林の手作り市……と、夢がどんどん広がっています。



保存会の人たちの指導で、地元子どもたちが田植えに挑戦。初めて泥に足を入れた子どもたちも、慣れてくると楽しそう

ラスト8号地 里山保存会 01

自然と共存した
里山の暮らしを
子どもたちに伝えたい

埼玉県緑のトラスト保全第8号地に指定されている高尾宮岡の景観地は、県と市と市民が協働で保全しています。この場所は、もとは手入れされた雑木林と、田んぼや畑の広がる里山でした。枝打ちした枝は燃料に、落ち葉は肥料に、木の実や山菜は食料にと、里山にはむだのない循環型の暮らしの知恵が詰まっています。人が手を加えながら自然と共存して暮らしていた里山の景観を再現・保存して、子どもたちに里山の暮らしを伝えていこうというのが「ラスト8号地里山保存会」です。

現会長の田島和生さんは「農家が少なくなつて荒れ放題にな

みどりを守り、守る。

緑豊かな自然環境は北本のたからもの。守り育てようと、多くの市民が立ち上がっています。

り、子どもたちが遊ぶのにも危険な場所になっていたので、見かねて、この会が発足されました。平成20年度に市の協力で、地元9地区自治会及び市民有志のみなさんにより田んぼが作られ、代かきから田植え、収穫まで地元の子もたちもいっしょになり、楽しげに参加しています。先人が築いたものを引き継いで、新しい時代の里山をつくり、未来に残していきたいです」と今後の夢を語ります。

保存会の人たちの指導のもと、総合学習の時間を利用して米づくりに取り組んでいるのは石戸小学校の5年生です。「毎日食べているお米がどのように作られているのか、実際にやってみることで感謝の気持ちが生まれ、食育につながっています。子どもたちが地域の人たちと触れ合えることも、とても貴重な体験ですね」と米田久仁夫校長。秋には収穫した米を使った給食の時間に、里山保存会の人たちを招いての会食も行われています。



新緑の森を舞台とした「森のコンサート」。木漏れ日の中で聴く音楽はヒーリング効果抜群

Kitamoto Grove Society
Kitamoto Grove Society is a citizens' organization aiming at developing a greenery community through grove conservation activities. The society carries out work including cleaning and pruning, and holds events such as the Forest Concert and Nature Observation meeting. Lowland groves in urban districts are valuable. So the group is making efforts to conserve the groves through cooperation among the three bodies, consisting of the city, volunteers, and land owners utilizing citizens' management agreement system backed up by the prefecture.

Trust No.8 Satoyama woodland conservation group
Takaomiyaoka, with its beautiful scenery, is designated as the No.8 conservation area of the Saitama greenery trust. This area is preserved by the prefecture, city, and citizens in cooperation. Satoyama woodland is blessed with abundant potential for recycling-based living. The trust group is carrying out activities to pass the Satoyama woodland life on to children through recapturing/conserving the landscape. Together with community children the group creates paddy fields, plants rice seedlings, and harvests the rice.



田植えが終わった田んぼをバックに、みんなで記念撮影



実りの秋、子どもたちは保存会の人たちといっしょに稲刈りに精を出し、収穫の喜びをともに味わう



金曜日の夕方、駅前であそぶ人々。ビアガーデン風の「あきんど市Bar」は仕事帰りの人々にも好評



ミュージシャンによる生演奏など、駅前に人々が滞留するようなしかけをつくっている



お客さんとのふれあいは対面販売ならではの。商品の評判を肌で感じることができる

Kitamoto Akindo-juku (merchant project team)

In order to regain the same festivity in the urban area as it used to have, and build a community that the children can be proud of, the team was organized by commercial and industrial businesses in the city. Currently, it develops specialty products and holds Akindo market in the East exit area of the station. The Akindo market places importance on human communication and encounters that only face-to-face retailing makes possible. In the future, the team will make efforts to develop the intangible side of the projects with other various citizens' organizations.

Kitamoto City promotion group for landscape plants

The group is growing *Nanohana* (field mustard) in Takao district and holds the Nanohana Festival in order to prevent unused agricultural land from being devastated and to contribute to the planning of an environment-friendly community through recycling-based agriculture. Canola oil is sold as one of Kitamoto's specialty products. *Nanohana* helped in linking the regeneration of agriculture and cooperation among community people. In addition, it is also expected to have a positive effect on tourism.

北本あきんど塾 02

にぎわいを復活させ、子どもたちに誇れるまちをつくらう

郊外型大型ショッピングモールの出店ラッシュにより、増大していく市外への消費流出をス

トップさせようと、市内の事業者で平成15年に立ち上げたのが「北本あきんど塾」です。会長の大熊利之さんの「市街地に昔のようなにぎわいを取り戻そう、子どもたちにとって誇れるまちをつくらう」との呼びかけに賛同した業者が集まり、約45の事業所（平成23年現在）が参加して、特産品の開発や駅東口でのあきんど市の開催などを行っています。

月1回金曜日と土曜日に開いている駅東口の「あきんど市」。出店に当たってはカラーテントでブランド化し、北本らしさを出すとともに、対面販売ならではの人と人のふれあい、出合いを大切にしています。北本特産のトマトを使った揚げギョウザを販売する店舗では「トマトの風味が生きていておいしいと言われると、やりがいがあります。直接お客さんとふれあえるのがいいですね」と、手応えを感じ

ています。「テントでの物品販売にとどまらず、ビアガーデン風のあきんど市Barやジャズライブなども企画し、駅前を市民が集い、楽しめる場としたい」という大熊さん。今後は、顔プロや若手農業者、キタミン・ラボ舎など、さまざまな市民団体といっしょになってソフト面を成熟させ、駅前を中心ににぎわいを取り戻していこうとしています。

北本市作物北本景観振興会 01

休耕農地や荒地地利用で、循環型農業を地域の力で

市の西部地域はもともと農業の盛んな地域でしたが、近年は休耕農地が目立つようになりました。そこで、休耕農地を活用して北本の特産物を生み出したと、市産業観光課が呼びかけて発足したのが「北本景観作物振興会」です。志を共にする農家や近隣の住民が会員となり、高尾地区で菜の花を栽培し「菜の花まつり」を開催しています。休耕農地にコスモスやラベンダーなどの花を植えて景観をつくる試みは近隣市町村でも行われていますが、菜の花は見て楽しめるだけでなく、CO₂の削減に役立ち、食用にもなり、花が終わった後は菜種油がとれ、搾りかすは肥料になります。さ

らに、環境が整えばBDF燃料としても期待されるすぐれた作物です。平成19年から始めて、今では土地を提供する正会員が約50名、賛助会員が約130名、協賛者が約150名となり、休耕農地再生への取り組みが年々大きな広がりを見せています。恒例となった春の「菜の花まつり」では、ステージのほかには菜の花の摘み取りや菜種油の販売、菜の花迷路、地元小学生の絵画展示などが行われ、大勢の人々ににぎわいます。「この取り組みのおかげで、ごみの不法投棄がなくなりまして。作業には石戸小と西小の子どもたちも体験学習の一環として参加するなど、みんなの力で栽培に取り組んでいます。菜種油のラベル作りやラベル貼りもみんな手作業なんです」と、会長の田島庸晴さん。菜の花が農業の再生と地域の人々のつながりに大いに役立ち、観光面でも期待されています。



菜の花まつりの会場は、一面の花畑の真ん中にステージが作られ、その周りでは花畑の中を走る乗り物や、花畑の迷路、花畑のグラウンドゴルフなど、たくさんの催しが行われる



石戸小と西小の子どもたちも参加して行う菜の花の種まき



菜種油は北本の特産品の一つとして好評を博している

にぎわいを、つくる。地元に根付いた産業を市民みんなで盛り上げていきます。



菜の花の摘み取りは、菜の花まつりの主要イベントの一つ。花が咲いたものは観賞用に、若芽はおひたしや炒めものなどにして食べられるので、来場者に喜ばれている



「種は船」造船プロジェクトでは、市民とアーティストがいっしょになってつくった「船」が雑木林に浮かんだ

新たな創造の場を提供することで、まちの日常や、人、活動などからまちの「ビタミン」となる独自の文化を生み出し、根付かせていくことを目指し、さまざまな活動を行っています。

平成23年度からは、「北本ビタミン」で培った人的・物的資源を「地域資源」として活用する取り組みを行い、北本の新たな魅力を市内外に発信しています。

例えば「おもしろ不動産」。使われなくなった店舗や建物の情報を集めて、使ってもらう人を探すプロジェクトです。入居したアーティストたちの活動の様子を見るお宅訪問ツアーも催され、参加した市民からは「いろんな可能性を感じられて刺激を受けた」という声も聞かれました。

アーティストと市民が一緒になって、「おもしろいもの」を見つけて使っていく、北本の新たな魅力を増やす取り組みが、これからどんどん広がっています。



さまざまな市民団体がアイデアを持ち寄る「広場を育てる会議」

北本駅西口の駅前広場の改修計画にあたって、ハードの整備だけでなく、中心市街地のにぎわいづくりや市民参加を踏まえたソフト面からのまちづくりを目指して平成20年度から始まったのが「北本らしい顔」の駅前づくりプロジェクト（通称「顔プロ」）です。



北本駅西口広場の完成予想図

顔プロは、北本市と筑波大学・東京工業大学による官学連携プロジェクトです。初めに、どういう広場にしたいかを考える「つくる会議」と、どう広場を活用していくかを考える「つかう会議」という2つの会議を立ち上げました。ワークショップを開き、市の顔としてどんな駅前がふさわしいか、子どもたち

北本駅西口の駅前広場の改修計画にあたって、ハードの整備だけでなく、中心市街地のにぎわいづくりや市民参加を踏まえたソフト面からのまちづくりを目指して平成20年度から始まったのが「北本らしい顔」の駅前づくりプロジェクト（通称「顔プロ」）です。

市では、平成20年に日比野克彦氏の「明後日朝顔プロジェクト」に参加したことをきっかけに、「アートによるまちづくり」の取り組みを始めました。「北本ビタミン」と名づけられたこの取り組みは、市民と行政が協働で行う、箱モノや作品中心のハード型と異なり、ソフト型のアートによるまちづくりです。アートの輪を地域・市民に広げ、

地域資源を活用したまちづくり

特徴ある事業が交流の輪を広げ、コミュニケーションづくりに役立っています。

みんなが、参加する。



「もっと知ろう友達の国」。日本との習慣の違いや意外な共通点など話題は尽きない



高校生もボランティアで日本語指導を行っている

Kitamoto City International Lounge Committee
The International Lounge is a place where foreigners living in the city and local citizens exchange friendship through study on Japanese language and culture. Exchange volunteers of various ages gather. They enjoy opportunities to talk with each other and learn about the culture and customs of various countries.

Community planning utilizing community resources
Kitamoto City has been engaged in community development efforts called "Kitamoto Vitamin," in terms of intangible values of art through the collaboration of citizens and the public administration since 2008. In 2011, the city started to make efforts to utilize human and material resources nurtured by the Kitamoto Vitamin as community resources. Through collaboration of artists and the citizens, Kitamoto City disseminates its new charms inside and outside the city.

Kitamoto's symbolic and distinctive station front project
Refurbishment of the west exit front square of Kitamoto Station is aimed at community development in terms of intangible values based on citizen participation, not only by tangible development. Various projects have been set up through discussions in 2011 on a system in which a multipurpose square is run by citizens and others.



阿弥陀堂エドヒガンザクラ
Edohigan Cherry flower on the premises of Amidado (Amitabha hall)
樹齢約200年。市内で2番目の大きさを誇り、3月末ごろ濃いピンクの花を咲かせます。



高尾宮岡ふるさとの緑の景観地 Takaomiyaoka scenic green land
谷津と斜面林、湧水など里山景観がよく残り、貴重な動植物などが生育しています。

まちが桜色に染まる。
春、らんまん。



城ヶ谷堤 Jogaya bank
4月上旬には約60本のソメイヨシノで、土手に桜のトンネルが完成します。



北本子供公園 Kitamoto children's park
桜の季節にはお弁当を広げる親子の姿も見られます。



高尾さくら公園 Takao sakura park
30種の桜が植えられ、3月初旬から4月末までさまざまな桜が楽しめます。

きたもとの風景

ー季節の移ろいー

埼玉県の母なる川・荒川が流れ、昔ながらの谷津や湧水、雑木林が残る北本市。
豊かな自然や地域に根付いた伝統が季節の移ろいを肌で感じさせてくれるまちです。
彩りあふれる四季折々の風景が、住む人には憩いと潤いを、訪れる人には癒しと楽しみを与えてくれます。



荒川左岸斜面林 Trees on the left bank slope of Arakawa River
約30本の桜が周辺の林に映え、美しい散策路となります。

秋、あざやか。

祭りばやしが似合う季節。



紅葉 Autumn leaves
市内各所の雑木林や神社の森の木々が鮮やかに色づきます。



北本まつり Kitamoto festival
扇形の範頼ねぶたを筆頭にねぶたや山車が練り歩く「宵まつり」と、特産品の展示・即売が行われる「産業まつり」。11月の第1土・日曜日に開催される北本最大のイベントです。

冬、しんしん。

雪の富士山の絶景が迫る。



両大師のだるま市 Daruma market of Ryodaishi
「大師様」の名で親しまれている真福寺は開基約600年の由緒ある古刹。1月3日と2月3日には「だるま市」が開かれ、初詣や厄除け祈願の人でにぎわいます。



富士山の見える風景 Mt. Fuji landscape
荒川沿いからは冬の晴れた日、富士山をはじめ、奥多摩、秩父連峰、浅間山、榛名山、赤城山まで望めます。



北本中央緑地 Kitamoto central green land JR高崎線沿線に約1.3kmにわたって続く緑地帯。北本を代表する雑木林です。



北本自然観察公園 Kitamoto nature observation park
荒川河川敷に隣接し、雑木林や湿地など多様な自然が良好な状態で残されています。自然とふれあい、学び、憩える施設です。

夏、さわやか。

林を渡る風が気持ちいい。

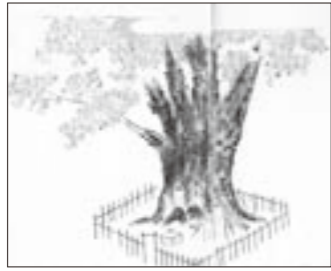


北本総合公園 Kitamoto general park
スポーツ・レクリエーションの拠点施設。夏には水遊びを楽しむ子どもたちの歓声が響きます。





渡辺華山が描いた『玄同放言(げんどうほうげん)』(1820年・滝沢馬琴著)の蒲ザクラ(写真提供: 下村克彦氏)



松浦静山(平戸藩主)が描いた『甲子夜話(かっしやわ)』(1821~40年)の蒲ザクラ(写真提供: 松浦史料博物館)

文人にもてはやされた蒲ザクラ

鎌倉時代、幕府のある鎌倉と各地を結んだ道路網が成立しました。後に「鎌倉街道」と呼ばれる道です。後世には北本市域には、鎌倉街道のほか、岩槻

「陸の道」で運ばれた情報と文化

道、松山道なども登場します。鎌倉街道沿いの石戸城には、永禄6年(1563)に上杉謙信が松山城を救うため、大軍を率いて来ました。石戸宿は鎌倉街道の宿場と伝えられ、江戸時代初期、宿並の南端には、鷹狩に来た家康の休泊所である御茶屋がありました。また、石戸宿にある堀ノ内館跡や東光寺には、源頼朝の異母弟、蒲冠者と呼ばれた源範頼の伝説が残ります。範頼ゆかりの蒲ザクラは、江戸時代後期、文人たちの間で大変な評判となりました。現在確認できるだけでも4冊の文献に取り上げられており、当時のこの地域の文化発信力の強さを感じさせます。

人や文化が往来した中山道

一方、室町時代後期、現在の多聞寺や本宿天神社周辺に「中山道」の宿場が置かれました。江戸時代になると宿場は鴻巣へ移転し、「本宿」という地名を残して、市域には「立場」といわれた休憩所が2カ所設けられま



東海木曾両道中懐宝図鑑(個人蔵)

した。中山道は、大名の参勤交代や日光例幣使、茶壺道中をはじめ、幕末には2万5千人を超えたと伝えられる和宮降嫁の大行列も通りました。庶民の往来もさかんでした。江戸中期以降になると4軒5軒に1人ぐらいたが江戸へ奉公などに出ていきました。その数は明治になるにつれ、さらに増えていったのです。

「蒲ザクラ」が結ぶ絆、平戸へ、浜松へ。

源範頼の伝説の残る「石戸蒲ザクラ」。江戸後期、長崎・平戸藩主の松浦静山が著書の中で紹介している縁から、平成16年に北本市から平戸市へクローン苗木60本を寄贈しました。移植された苗木はすくすく育ち、松浦史料博物館の敷地内や平戸つつじふれあい公園内の並木道などは、今や平戸市の桜の名所となっています。

一方、範頼の郷里である浜松市では、平成23年の浜松市制100周年記念事業の「100夢プロジェクト」の一つとして、平成17年に北本市から譲り受けた蒲ザクラ後継樹を、市民団体「蒲ザクラの里実行委員会」が、浜松市農業バイオセンターへ依頼し、増やした100本の苗木を蒲地区の芳川沿いに植樹する計画を立てています。同年7月に開催された蒲ザクラフォーラムには北本市の職員が招かれ、シンポジウムに参加しています。



浜松市の蒲小学校の校庭に咲く蒲ザクラは、平成17年に北本市から浜松市へ寄贈した苗木を植樹したものの

Advanced culture carried through the upland roads

Within the Kitamoto City area, there were old roads called Kamakura-kaido, Iwatsuki-michi, Matsuyama-michi, and other roads that originated in the Middle Ages. Along the Kamakura-kaido, Ishito Castle was built, where there are Kaba cherry trees that have a strong association with Minamoto-no-Noriyori, a military commander in the Middle Ages. These cherry trees became very famous to the premodern writers. Nakasendo is the road where the feudal lords' procession used to pass. Many common people also used to pass along the road, such that various traditions were introduced through Nakasendo.

チャレンジ精神を育んだ「北本の道」



Kitamoto citizens' challenging spirit toward the future
As Kitamoto flourished with roads and waterways, people, goods, information, and culture were transported by the gross to Kitamoto through "routes." The challenging spirit handed down over the generations to Kitamoto citizens has been nurtured and circulated through these routes. Try to find this challenging spirit of Kitamoto citizens which leads them from the past, to today, and into the future.

特集II 未来へ導く

北本人のチャレンジ精神

古くから街道や舟運が発達していた北本には、「道」を通して、多くの人や物、情報や文化が運ばれました。北本の人々の気質として今も受け継がれるチャレンジ精神は、かつて「道」を中心に育まれ、広がったものです。歴史の中に、今も息づき、未来へと導く北本人の気質を読み取ってみましょう。



「舟の道」で運ばれた 経済力

年貢米を積み出す 幕府制定の「高尾河岸」

高尾河岸※1が開設された江戸時代初期から明治の中ごろまで、当地方の物産の江戸への上り荷、江戸からの物品の下り荷の船でにぎわいをみせていました。

寛永6年(1629)、荒川の瀬替え工事により江戸への舟運路が創出されました。江戸を中心に放射状に広がる川の中には、現在の物流ネットワークのようなものがありました。元禄3年(1690)には、高尾河岸は幕府公認の河岸(年貢米の積み出しをする権威ある河岸)となりました。また、河岸には幕府により認められた運送業を営業とする船問屋が成立し、幕府や諸藩の年貢米を輸送する際は「御用」旗を掲げることができるようになったのです。



「御用」旗(写真提供: 田島和生氏)



船問屋田島家に残る高瀬舟の帆柱(写真提供: 田島和生氏)

高尾河岸を利用していた地域は、現在の北本市域をはじめ、鴻巣市の郷地、笠原や常光、蒲町の小林や菖蒲、吉見町の吉見や南吉見にまで及びました。高尾河岸から江戸・浅草の御蔵河岸(現在の蔵前・幕府の米蔵があった)まではおよそ川道33里の距離。高尾河岸から江戸への往復の日数は約8日といわれています。

「しょうがなかつたら高尾へ行け！」

明治の初めごろから、高尾地域の工芸品、桐タンスもここから積み出され、「東京タンスの元祖」といわれた時代もありました。北本で最も活気のある場所となり、川を行き来する船の帆柱が、ナラの木のように見え

たといえます。船の積み荷を入れる倉や運送屋、宿、たばこ屋、ふる屋、料理屋などの家々が建ち並び、人々が忙しそうに行き交っていました。

そのため、当時は、「しょうがなかつたら、高尾に行け」という言葉までありました。これは「塩がない」「仕事がなくてしょうがない」、つまり暮らしに必要なものがなくて困ったときは、高尾に行けば用が足りる、仕事が見つかる、という意味で、高尾河岸はそれくらいにぎわっていたのです。

明治9年頃には、荷船5艘、渡し船2艘があり、船問屋も3軒ありました。その一つ、田島家には、今も御用旗や長さ15メートルの帆柱、碇などが残っています。

地域には、その他、荒井河岸・石戸河岸もありました。明治16年に高崎線の鉄道が開通したことで、舟運はしだいに寂れてしまいましたが、長い歴史と潤沢な経済力を背景に、北本らしい、チャレンジ精神にあふれた人物がここから輩出されたのです。

※1 河岸(かし)…川岸の船着場。江戸時代以降、船問屋や倉庫、商人が集まり集落を形成した。

情報収集力と経済力が生んだ 一大プロジェクト

なぜ「北本といえばトマト」なのか？

中世以来、街道や舟運を通して人や物や情報が行き交った北本の地で、新しい情報や経済力を身に付けた人々は、球根や果樹栽培、酒造や醤油醸造、桐タンス製造など、農業を主としながらさまざまな産業を興してきました。なかでも特筆すべき事業が、昭和初期の洋食ブームをけん引した「トマトクリーム」の製造・販売です。

当時、日本一の評価を受け、埼玉県の三大名産品の一つに数えられたトマトクリーム。そのプロジェクトに挑んだ先人たちの意気込みの中に、北本人ならではのチャレンジ精神を見取れます。今も「北本といえばトマト」といわれるわけは、ここにあるのです。

農家の研究と実践の場 「農友会」の発足

大正4年、農業が盛んだった北本(当時の石戸村)で、大正デモクラシーの気運の中、北本のチャレンジ精神を引き継いだ

「農友会」が発足します。

農友会では、講演会で勉強したり、耕地の土質検査や、肥料計画を立てて、実験的にいろいろな農作物を取り入れたりしました。改良農具の導入などと合わせ、大麦、小麦、製茶、揚水などの事業を行う一方、「採種場」を設けて、タネの段階から、品種改良や統制を図っていたのです。

大正6年には、大根・ゴボウ・キュウリ・ナスの種を採種、大正14年にはトマトの植え付けが行われています(※2)。当時、国産トマトの種子がアメリカに輸出されて好評だったため、北本の農友会でも挑戦したので

トマトのタネを 輸出しよう

この時期、第一次世界大戦の戦勝国となった日本は空前の好景気を迎え、アメリカとともに、物資の生産拠点として貿易を加速させていました。

資料によれば、当時の「(石戸村)主要産物は、米、麦、蕎麦、甘藷、種苗類、トマト等で、中

でも麦とトマト野菜種子は有名である。その外筆筒製造、機械製茶、蚕種業も営まれ、養豚、養鶏、養兔等もかなり盛んに行われている(※3)とあります。

トマトの種子がアメリカへの輸出品として有望だという話を聞きつけて、この事業を強く進めた人物に、農友会創立当時の会長・田島忠夫がいました。田島会長と役員が乗り気となり、農林省(当時)の紹介で、横浜の輸出商・坂田商会(現・株式会社サカタのタネ)からトマトの種子19品種を取り寄せ、村の400アールの畑に植え付けました。

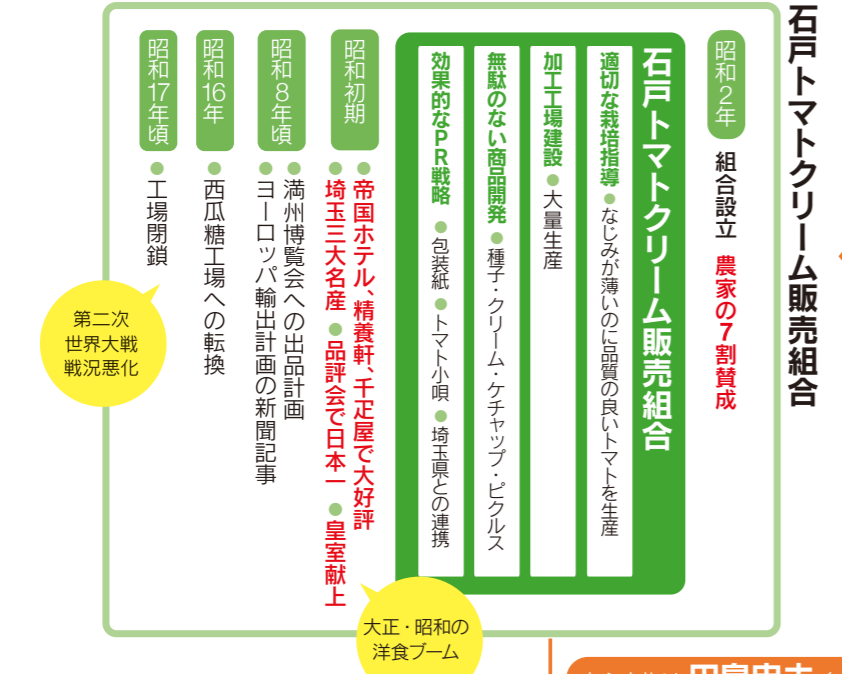
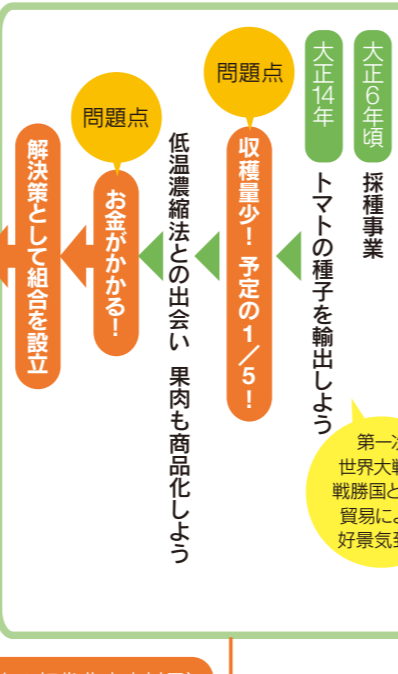
農業の科学的経営と農民の共同生活に関心の高かった田島忠夫は、大正9年の球根の研究に続いて、トマト栽培を行いました。忠夫は、かつての高尾河岸の船問屋・田島家18代当主太郎の弟で、昭和18年には石戸村と中丸村が合併して北本宿村ができましたが、その初代村長となります。縁戚にあたる石戸村長・吉田時三郎から、農業や農村のあり方についての薫陶を強く受けました。

※2・3『石戸郷土読本』(昭和8年刊行)



Economic strength carried through waterways
Takao district has flourished through shipping for about 300 years since the Takao-kashi (boatslip) was opened at the beginning of the 17th century and became one of the boatslips designated by the government of Edo. The Takao-kashi became the busiest place in Kitamoto in the middle of 19th century to the point where people used to say "Go to Takao when life gets tough." On the back of a strong economy Kitamoto city has nurtured many people with a challenging spirit.

石戸トマトクリームプロジェクトの概要 農友会(大正4年発足)



中心人物は 田島忠夫 (のちの初代北本宿村長)

タネは予定の5分の1しか採れない

トマト栽培に当たっては、土地を開墾して畑をつくりました。4年ごとに畑を替えていきましたが、石戸村の適度に湿気のある土壌や、砂質土壌は、トマト栽培に適していました。

ところが、実際にタネを採ってみると、その採種量は予定の5分の1！これでは採算がとれません。そこで彼らは、タネを採るために捨てていた果肉も生かすことを思いつきます。今ではトマトの実を食べることは当たり前ですが、それまでトマトを見たことも食べたこともなく、あくまでもタネを採るために栽培していた人々にとって、画期的な発想でした。ここで、農友会の人々は、新たな製法と出会うことになりました。

果肉も種子も生かす 低温濃縮法

まずは、当時、トマトクリーム製法の発明専売特許をもっていた農林省の技師、草野計起から承諾を得ます。また、トマトを加工する機械はすでにありましたが、果肉も種子も生かすという機械が無かったため、「埼玉農事試験場」に相談し、「低温濃縮法」という製法を紹介されました。

「製餡機械」を利用する「低温濃縮法」は、果肉を真空釜で40

から、寧ろ悲壮な位であった。工場の中には、直径2m大の真空釜が立ち、3つの殺菌釜が横たわり、20馬力の蒸気エンジンと、18馬力の電動機1台が厳然と据え付けられ、見るからに堂々たるものである」とあります。大変な思いをしながら、多くの農民が、意気揚々と新しい事業に取り組む姿が思い浮かびます。

現代の六次産業につながる生産・加工・販売体制

トマトの種子は、すべて組合から各農家に支給されました。品種は「ポンテローザ」。暗赤色のトマトで、形は少しいびつですが、実が大きく育つのが特徴です。当時の日本では、愛知・茨城・千葉・神奈川でトマトを栽培していましたが、石戸村の人々にとっては、初めてのことばかりでした。

そこで、組合の技術員が一つ一つの畑をまわって肥料の配合指針等を示し、実地指導を行いました。「トマト栽培要項にはくわしい栽培方法が記載されていた。生産経験の乏しいトマトという果菜類を栽培する農家の不安を解消するために、綿密な計画によって指導しようとした心意気がうかがいしれる」（『北本市史』より）。



トマトクリームがもてはやされた昭和初期の銀座（写真提供：中央区立京橋図書館）

Large project backed up by spirit of innovation and economic strength Kitamoto citizens who developed their challenging spirit using the roads and waterways took on the production of tomato cream at the beginning of the 20th century. In 1915, Noyukai, which studies agricultural villages and puts what it has studied into practice, was established. It started tomato planting in 1925, in order to try exporting tomato seeds. As only 1/5 of the scheduled seed production was produced, it began tomato cream production by a low-temperature enrichment method, which can use both fresh tomatoes and seeds. Noyukai constructed a plant in Ishito Village and organized a marketing cooperative in order to establish a production/processing/marketing system. Fine quality tomatoes were shipped fresh in boxes to Tokyo and other areas. Tomato cream and tomato ketchup were bottled and canned, and unripe tomatoes were pickled. In this way, all tomatoes were used and sold with a minimum of waste through product development. In the office entrance, the watchword of "One for all, all for one" was posted. All members offer money and wisdom, work together, manage together, and share in the profits. Such acts are representative of the challenging spirit of Kitamoto citizens. At the beginning of the 20th century, Western cuisine became popular in Tokyo, and Ishito tomato cream has become highly favoured by well-known Western-style restaurants and hotels.

度から50度の低い温度で煮詰める製法です。高い温度で煮詰めてしまうと、うま味も栄養も失ってしまいますが、この方法なら、ビタミンも殺さず、濃度はトマトソースの3倍で、トマト本来の「味」と「香り」も保てるという画期的な方法でした。この製法に踏み切るまでの様子が『北本市史』に記録されています。「まずは、東京市尾久にある西瓜糖を製造している日本製菓会社の工場にある真空釜で実験した。うまくいったが、トマトを尾久まで運ぶのはたいへんなので、機械を設置して、独自工場を作ることにした」。こうして、いよいよ石戸村に工場を作ることとなったのです。

農家の7割が賛成 石戸トマトクリーム販売組合

昭和2年6月10日「石戸トマトクリーム販売組合」が設立さ



荒川でのトマト種子採取の様子（大正14年頃 写真提供：田島和夫氏）

トピクルス3万個が生産されました。さらにその後も、競売会を開催して生産競争を行い、昭和8年には10アールの畑で1万1千キログラムものトマトの収穫量を上げるまでになりました。

無駄のない商品開発

当初は、思うようにタネの採取量が確保できず困惑しましたが、果肉も効果的に活用することができるようになり、販売組合が扱う商品は次々と増えました。収穫したトマトのうち、粒の揃った優良品は生のまま箱詰めされて、東京、その他の青果市場に出荷されました。トマトクリームやトマトケチャップは、



石戸トマトクリーム販売組合工場（昭和2年 写真提供：石戸小学校）

れました。出資は1口20円で、合計1千口。資本金2万円の産業組合を組織して、トマト加工工場の建設を決めます。村内農家の7割が賛成したというから驚きです。

出資方法は3通り。現金で出資できる者は現金で、労働力を提供できる者は労働力で、できあがった生果（トマト）で出資する場合は、トマト375キログラム当たり10円で計算されました。個々の農家の実情に合わせて、出資方法も選べる、開かれた組合組織でした。

集まった出資で、33アールの敷を開拓し、500平方メートルの工場を建設しました。『石戸郷土読本』によれば、「昨日まで鋤を握って居た人々が、工場の設計、機械の据え付けなどをやるのであるし、又機械の運転も、最初から村民の手でやろうといふ方針でかかった

ピン詰や缶詰として各地で販売されました。

秋口に熟し切らないトマトは、なんとトマトピクルスにして売っていました。初めてのトマト栽培に取り組みながらも、無駄なくトマトを生かききる、その創意工夫の妙技には頭が下がります。

工場の加工能率は1日最高3万キログラム。加工品の販売先は、東京、大阪、神戸、樺太にまで広がり、食物調味料や魚類缶詰に活用されました。陸軍糧秣本廠や海軍経理学校へも納入されました。

品質の向上した生果のトマトは、毎年8月、皇室献上の栄誉にあずかれるほど、おいしくできるとなったのです。



釜から流れ出るトマトクリーム（昭和2年頃 写真提供：田島和夫氏）



石戸のトマト畑（昭和2年頃 写真提供：石戸小学校）

各人は万人のために 万人は一人のために

事務所の入り口には1枚の標語が掲げられていました。「各人は万人のために 万人は一人のために」。これこそが、石戸トマトクリーム販売組合の組合精神でした。皆でお金と知恵を出し合い、皆で働き、皆で経営し、分配しあう……精神論だけでなく、経済も成り立たせようという強い意志と行動力を感じさせます。

あの名店からも お墨付き

石戸村で、農民たちがトマトクリーム販売組合で奔走していた昭和初期、東京では「銀ブラ」

という言葉が生まれました。大正の3大洋食（カレーライス・とんかつ・コロッケ）もしくはオムレットが話題となり、徐々に日本人の食事も西洋化されました。きっかけの一つは日本海軍の「西欧列強と対等に付き合えるように西洋のマナーや食事作法を身に付けるべし」という考え方に影響されたことです。

その海軍兵は、西洋料理店の「精養軒」で食事することを義務づけられていたが、なんと石戸のトマトクリームは、この精養軒でも扱われていました。そのおいしさは東京でも高く評価され、帝国ホテルや千足屋、国分商会（現・株式会社国分）の食品部などで、時価の3割高で取引されたのです。



工場でのトマトの洗浄の様子（昭和2年頃 写真提供：田島和夫氏）

Topics

オリジナルトマト料理づくりに挑んだ西小ポンテローザクラブの子どもたち



一方、平成22年に行われた北本郷土料理発掘ワークショップで「トマトクリーム」の復刻に関わった人たちが続けている活



畑で育ったポンテローザ



優勝レシピの「北本トマトカレーライス」で埼玉B級ご当地グルメを目指す



「きたもとご当地グルメ」開発コンテストのようす

Revitalization of community starting with Kitamoto tomato

In order to revive the taste of Kitamoto tomatoes, which was "number one" in Japan, many citizens from primary school pupils to adults started to make concerted efforts. They grow seedlings of the past breed variety and cook original dishes using the harvested tomatoes. They have revived the tomato cream, produced seeds, and taken on the challenge of growing tomatoes from the seeds. "The 9th Saitama Class B Local Gourmet Food Championship" is planned to be held in Kitamoto City in 2011. Efforts have been made to develop a new local gourmet dish for the championship. Therefore, "Kitamoto Tomato Curried Rice" was born. The project to boost the development of the community using tomatoes that Kitamoto citizens take pride in has begun to expand.

「北本トマト」から 広がるまちおこし

**復活せよ！
ポンテローザ**

「トマトクリーム」を生み出した先人たちのチャレンジ精神は、北本人の誇りともいえるもので

すが、長く忘れられていたできごとでもありません。その歴史を掘り起こし、受け継ごうという動きが、近年広がりを見せてきました。

トマト料理で B級グルメ王に挑戦

平成23年11月に「第9回埼玉B級ご当地グルメ王決定戦」が北本市で開催されることになり、特産のトマトを使った料理のレシピを募集したところ、西小ポンテローザクラブをはじめ、市民や各種団体から24品目のレシピが寄せられました。コンテストでは、「北本トマトカレーライス」が優

昭和初期に日本一に輝いた幻の「北本トマト」。その味を復活させ、まちおこしに役立てようと、小学生から大人たちまで、多くの市民が活発に動き始めました。

勝し、このメニューでB級ご当地グルメ王を目指します。

西小は惜しくも選にもれませんが、北本の誇り「トマト」によるまちおこしは、多くの市民や、商工会、飲食店組合などを巻き込みながら大きな広がりとなり始めました。

組合設立の翌年には「日本一」を受賞！
昭和2年に組合を設立したばかりでしたが、石戸トマトクリームは数々の博覧会でもすぐに話題となりました。
昭和3年1月、東京三越で開催された「全国名産食料品陳列会」に、埼玉県の名産品として、川越芋せんべい、熊谷五家宝と並んで、石戸トマトクリームとトマトピクルスが出品され、大好評を博しました。同年5月には、「御大礼博覧会」に出展し、全国270種の中で優良国産賞表彰を受賞し、日本一の評価を受けたのです。さらに5年の東京日本橋白木屋「国産愛用家庭生活展覧会」では、農林省がトマトピクルス、トマトケチャップ、トマトクリーム1ポンド瓶各5個を、わざわざ買上げて出品するほどでした。品

出荷用の「石戸トマト」の包装紙 (昭和2年頃 写真提供：北本市教育委員会)



質がきわめて良く、外国製品と比べても優るとも劣らないものとして農林省から推薦されたのです。ちなみにこの時期のトマトピクルスは1瓶25銭、トマトケチャップ45銭、トマトクリーム40銭でした。
昭和4年には日中戦争の兵士の食糧に採用、8年には「満州博覧会」への出品決定、9年の東京日日新聞記事には「ヨーロッパにも輸出する用意あり」と記載され、アジア、ヨーロッパへの輸出が準備されていたことがわかります。
にくい販売戦略 石戸トマトクリームを広める！
組合は、おいしいトマトクリームを製造・販売するだけでなく、宣伝も工夫していました。昭和5年には、小さな子どもでも口ずさめる「トマト小唄」が作られ、同じ頃、絵葉書も発行されました。小唄は今でいうPRソング、絵葉書は、テレビの無かった時代にビジュアルで人々の興味をひく大きな販売戦略ツールとなりました。
『石戸郷土読本』を著した綱島憲次は、同著の中で次のように組合を評価しています。「科学的に研究して、近代文明を取り入れて、農村としての使命を果たすべく、努力していく組合は、恐らく日本に類がないであろう」。

時代が早すぎた 「石戸トマトクリーム」

昭和10年代に入ると、戦争の色合いが濃くなり始め、嗜好品よりも直接お腹を満たす食材が求められるようになりました。日本が太平洋戦争に突入した昭和16年、トマトの加工工場は西瓜糖を作る工場に転換した後、昭和17、18年頃に閉鎖されました。

このように、今となっては、幻となってしまった「石戸トマトクリーム」ですが、この商品を生み出し、販路を広げた我々の祖先の中に、大いなるチャレンジ精神を感じることができません。よけいなものをいっさい使わず、野菜のうま味だけを凝縮した味は、むしろ今こそ、望まれる味なのかもしれません。
(本文中の人名は敬称略)

Interview



高級品だから なめたことはありません。

細田まちさん (94歳・当時のトマト工場に勤務)

15、6歳の頃、トマトの最盛期の夏場に、組合の工場で作るトマトを洗ったりしました。石戸地区の同年齢の女の子たちが、3、4人いました。高級品だったからでしょうか、トマトクリームを味見したことはないですね。一度、バスの日帰りで、筑波山へ社員旅行に行ったこともありましたよ。

トマト小唄 (昭和5年頃) 作詞：綱島孤愛 (憲次)

待つは一雨 青葉の影に
ちよいとのぞいた 赤トマト
娘二八じゃ 色まだ浅い
トマト盛りの 艶のよさ

赤い心を 面にみせて
君のくちづけ 待つわいな
粹な人目も 千夜の思い
まってトマトの 一ちぎり

ポンテローザは 異国の種よ
今じゃ石戸の トマト畑
都恋しや 南の空へ
トマト工場の 朝けむり

Japan's finest tomatoes, Ishito tomatoes

Ishito tomato cream was presented to the Japan Food Specialties Exposition as Saitama's specialty in 1928. In the same year, Ishito tomatoes won first prize in the Gotairi Exposition, and the export of Ishito tomatoes to Europe was planned. The marketing strategy included making Tomato songs and tomato postcards, along with other innovative efforts. The taste of Ishito tomatoes became nostalgia, however, due to the closure of the plant as the Pacific war intensified.

座談会

どこへ向かう？ 北本人の チャレンジ精神！

語り始めた、北本人

北本を「自分のまち」と意識して、まちづくりで最初に動き出したのは、他の土地から移り住んだ人々でした。「よそから来た人は、『終の棲家』という意識がとて高い。北本を知りたい、語りたいという欲求は、北本で生まれ育った人々たちより強いように思う」と「かたりべの会」や「きたもと食伝」代表の白石春彦さんが言うように、人は第二の故郷として選んだ土地の方が、自らの意志で愛情を注ぐうとするものなのかもしれません。

そんな白石さんたちの活動を見ながら、やがて北本で生まれ育った人々たちにも火が着きます。北本あきんど塾の大熊利之さんも、現在の北本まちづくり観光協会副会長を務める若山晋さんも、にぎわっていた駅前や、緑豊かなかつての北本の風景を

体が覚えていきます。そんな生粋の北本人が、今、まちづくりを語り始めました。

北本の「農」の可能性

石戸トマトクリームの復刻に取り組み白石さんに、メールを送る北本市農業青年会議所会長の原島卓男さんもその一人です。「トマトクリームに使われたポンテローザは、トマトの原種で今は育てるのがたいへんだと思う」という原島さんの言葉通り、苗はなかなかうまく育ちませんでした。しかし、白石さんたちはトマトを育てたかったというより、苗と一緒に北本の「トマトの物語」「トマトの歴史」を市民に届けたかったのです。その活動は、西小学校や北本高校の生徒たちの活動にもつながっています。

そんな物語の継承を可能にするのは、北本の大地、「農」が充実しているからです。原島さんによれば、北本ではほとんどの野菜を作ることが可能で、畜産関係も充実しているといえます。そんな恵まれた環境を生かし、「完全北本産食材給食」を目指しています。そんな原島さんに「実は、あきんど塾でも『北本弁当』を作ろうという動きがあった」と話すのは大熊さん。「顔の見える食材で作るお弁当、直売所だけでなく近隣のスーパーでも売ればいいな」と、

上野駅まで45分、新宿駅まで50分。7万の人々が住む北本は、首都圏のベッドタウンとしての一面以外にも、多様な顔を持っています。少し目を凝らしてみると、そこにはいろいろな市民活動が始まり、互いに影響しあい、新しいうねりとなって広がっています。雑木林、アート、食、市、観光、駅前・・・、様々なキーワードのもと活動している市民が集い、北本の「今」と「これから」を語り合いました。彼らの語るこのまちの主人公は、ほかでもない「あなた」なのです。



Where now? The challenging spirit of Kitamoto citizens
Kitamoto, with its population of 70 thousand, has various attractions. People who are engaged in activities with the key words of groves, art, food, city, sightseeing, station front, etc. gather in the "community development caravan," to discuss current conditions and the future of Kitamoto. You can actually feel the challenging spirit handed down over generations among those people, who are making serious efforts towards community development in their respective endeavours.



座談会の席でも小さなコロナレインションが始まっています。

突然来ても、まちの深いところに関われる

キタミン・ラボ舎事務局長の空閑あきさんは、「私は転入したばかりですが、北本には語ってくれる人がいっぱいいて、すぐにまちづくりの深いところに関われました。北本のユニークな一面だと思えますね」と印象を述べます。変わり始めようとしている北本を、住み始めたばかりの空閑さんが実証したことになるでしょう。

無関心を装う市民を巻き込め！

北本生まれの若山さんも、サラリーマン時代は「北本のまち」

に無関心でした。それが、起業して独立すると、地元の人脈や情報があふれるようになり、何かをしないではいられなくなったのです。若山さんが提案するのは、主たる観光地に1時間半で行けるアクセスのよさをアピールする『北本ハブ化構想』。一見無関心を装うサラリーマン組をくすぐる発想が若山さんにはあふれています。

新たな時代を拓く チャレンジ精神

北本市民は、新たなまちづくりに向かっていけるのでしょうか。大熊さんは心配する必要はないと自信を持っています。「若山さんの『北本ハブ化構想』もそうだが、いい意味でバカな奴はたくさんいる。バカとは、北本のまちに熱心で夢中になれる奴のこと。そういう人をいかに見つけて、いかに結びつけ、化学反応を起こすか。北本のまちづくりは、次の段階に入っている」と大熊さんは言います。

「農家は案外食べている人から感想を聞くことがない。今後はそんな機会もほしい」と原島さん。「イベントのための話し合いではなく、北本のまちについて語っているうちに新しいイベントが生まれる、そんな流れが素敵だと思う」と空閑さん。さまざまな活動が結びつき、新しい流れが生まれつつある北本。そこには先人たちが受け継いだチャレンジ精神が脈々と流れ、新たな時代が切り拓かれています。

（平成23年7月30日、「北本まちづくりキャラバン」にて）

大熊利之さん
（北本あきんど塾代表）
まちは「へそ」の部分にぎわいを作って、商業や市民が滞留しないと文化が育ちません。そのために「あきんど市」を開催しています。いろんな団体も育ってきたので、次はどれだけ連携して、チームワークを組み、更にスケールアップできるかです。そのためのコーディネーターであるプロデューサーの誕生が待たれるところです。
*「北本あきんど塾」p15参照

若山晋さん
（北本まちづくり観光協会副会長）
地元で起業してからは、仲間と一緒に自分も何かしたいという気持ちが生れました。北本は「家を持ちやすい」まち。スキー場も、海水浴場も、温泉も、高速を使えば1時間半。大きな観光地がなくても、よその観光地を満喫できる場所です。そこに住んで北本の野菜やお祭りの良さにふれることで、「住んでいいまち北本」を実感するという発想が可能なのではないでしょうか。
*「キタミン・ラボ舎」p16参照

空閑あきさん
（キタミン・ラボ舎事務局長）
アーティストの荒神明香さんのお手伝いがきっかけで、北本に転入しました。まちづくりデザインが出来上がっている都市と比べて、北本はこれからいくらでもやれることがあり、その気があれば、いくらでもまちづくりに関わられます。いつも面白いことが起きていて、それをずっと見ていたい、そんなまちになるといいなと思っています。
*「キタミン・ラボ舎」p16参照

原島卓男さん
（北本市農業青年会議所会長・梨農家）
西口広場に農家の直売所ができればいいなと思っています。小学校で野菜作りをして採れた野菜のおいしさを実感してもらおう活動もしています。今の北本の農業を支えているのは70代の方。青年会議所の会員に20代は5人くらいしかいません。この20代が最後の農家とならないように、子どもたちに北本の採れた野菜のおいしさを伝えていきたいです。
*「きたもと食伝」p29参照

白石春彦さん
（きたもと食伝代表）
長崎県出身で、北本は第二の故郷です。「きたもと食伝」では、「石戸トマトクリーム」の復刻を目指し、ポンテローザを市民の皆さんと育てたり、西小や北本高校の生徒たちとトマト料理レシピ作りを進めたりしています。北本の食と歴史を通じて、子どもたちに北本の良さを伝えていきたいと思っています。
*「きたもと食伝」p29参照

北本のあゆみ		
昭 和	3年	5月 石戸トマトクリームが、御大礼博覧会で優良国産賞を受賞
		8月 高崎線北本宿駅営業開始
	16年	3月 多聞寺のムクロジが県天然記念物に指定
	18年	2月 石戸村と中丸村が合併、北本宿村誕生
	25年	6月 駅前に北本宿村役場を新築
	27年	7月 高崎線が電化され、電気機関車が走る
	34年	11月 町制施行により北本宿村を北本宿町とし、名称変更により北本町誕生
	36年	3月 北本宿駅が北本駅に改称される
	37年	5月 大宮～鴻巣間国道17号が開通
	38年	4月 現在地に町役場庁舎が完成
39年	7月 北本町・鴻巣市・吹上町・菖蒲町・川里村で北本地区衛生組合を設立	
	10月 オリンピック東京大会の聖火が町内を通過	
40年	8月 町章が制定される	
46年	4月 北本市で初めての保育園、中央保育所開所	
	9月 日本住宅公団北本団地第一次入居開始	
	11月 市制施行により、北本市誕生	
48年	1月 北本市の歌、北本音頭ができる	
49年	7月 子供公園が開園	
	8月 市立図書館が開館	
50年	4月 県立北本高等学校が開校	
	4月 北本駅西口広場が完成	
52年	9月 北本駅橋上駅舎が完成	
	11月 市の木「さくら」、市の花「きく」を制定	
53年	12月 老人福祉センターが開館	
54年	2月 人口5万人となる	
	6月 防災行政無線スタート	
56年	11月 市民憲章制定、北本市社会福祉協議会を設立	
57年	5月 荒井橋が永久橋として開通	
59年	3月 埼玉中部環境センター完成	
	4月 中央公民館・中央図書館の複合施設、文化センター完成	
	4月 あすなろ学園(精神薄弱者通所授産施設)開所	
61年	11月 第1回北本まつり開催	
62年	5月 北本総合公園・荒井公園テニスコート完成	
	6月 人口が6万人となる	
元年	4月 北里研究所メディカルセンター病院開院	
2年	9月 シルバー人材センターを設立	
3年	6月 体育センターが開館	
	10月 福島県河沼郡会津坂下町と姉妹都市を提携	
4年	7月 北本自然観察公園が開園	
5年	6月 総合公園野球場がオープン	
6年	8月 人口が7万人となる	
7年	6月 高尾さくら公園が開園	
8年	3月 第1回さくらまつりを開催	
	4月 常備消防の広域化(埼玉県央広域事務組合)	
10年	7月 野外活動センターのキャンプ場が開園	
13年	10月 北本市児童憲章「北本っ子未来への誓い」を制定	
14年	4月 駅西口ビルが完成	
15年	5月 地場物産館「桜国屋」が開館	
16年	10月 彩の国まごころ国体開催	
	11月 北本ピアノコンクールを開催	
17年	9月 高尾宮岡ふるさと緑の景観地が県の緑のトラスト保全第8号に決定	
19年	1月 市民大学きたもと学苑を設立	
	2月 北本ジュニア囲碁まつり2007を開催	
20年	4月 地域食材供給施設「さんた亭」がオープン	
	5月 クレジットカードによる市税等の納付を開始	
21年	1月 第1回きたもとアマチュアバンドフェスティバルを開催	
	3月 子供公園に40mを超えるローラー滑り台を設置	
	5月 江崎グリコ(株)の新工場の建設が決定	
	9月 北本市自治基本条例を制定	
	10月 北本市デマンドバスのテスト運行開始	
	10月 日本文化デザイン会議2009「アートプロジェクト in 北本市」を開催	
22年	1月 乳幼児医療費支給対象を中学生まで拡大	
	3月 圏央道「桶川北本インターチェンジ」が開通	
23年	11月 市制施行40周年	



国道17号が開通(昭和37年)※



北本団地入居開始(昭和46年)※



体育センター竣工式典(平成3年)※



第1回さくらまつり(平成8年)※

※写真提供：北本市教育委員会

社会の出来事
第1回普通選挙実施
張作霖爆殺事件
太平洋戦争始まる
改正市町村制実施
朝鮮戦争勃発
ソ連が人工衛星スプートニク1号の打ち上げに成功
新国民健康保険法施行
国産初の電子レンジ発売
東京都の人口が世界1位(1千万人突破)
米ケネディ大統領暗殺
東海道新幹線開業
東京オリンピック開幕
ソ連が人類初の宇宙遊泳に成功
沖縄返還協定調印式
ソニーが世界初のカセット式テープレコーダーを開発
江崎玲於奈氏、ノーベル物理学賞受賞
ジャンボ宝くじ発売
佐藤栄作元首相がノーベル平和賞受賞
山陽新幹線、岡山～博多間開業
ベトナム戦争終結
初の静止気象衛星ひまわり1号打ち上げ
王貞治氏、756号ホームラン世界記録達成
日中平和友好条約調印
国立大学第1回共通一次試験実施
アジア初の東京サミット開催
福井謙一氏、ノーベル化学賞受賞
カード式公衆電話登場、テレホンカードブーム
参議院議員選挙に比例代表制を導入して実施
国鉄分割・民営化でJR誕生
朝日新聞阪神支局銃撃事件
大韓航空機爆破事件
消費税3%導入
東西ドイツ統一
湾岸戦争開始
ソ連邦消滅
ブラジルで国連環境開発会議(地球サミット)開幕
Jリーグ開幕
大江健三郎氏がノーベル文学賞受賞
阪神淡路大震災発生
HIV起訴和解、葉害エイズ問題
アトランタ五輪開幕
和歌山でカレー毒物混入事件
米国で同時多発テロ発生
アジア初の日韓共催サッカーW杯開幕
住基ネット本格稼働、新サービス開始
新潟県中越地方で震度7の地震発生
インド洋スマトラ沖地震で津波被害
JR西日本で列車脱線衝突事故発生
新潟県中越沖地震
郵政民営化スタート
日本人科学者4名がノーベル賞受賞
オバマ氏、米国の黒人大統領に就任
裁判員制度施行
改正臓器移植法が成立
インドネシアスマトラ島沖大地震発生
オバマ米大統領ノーベル平和賞受賞
小惑星探査機「はやぶさ」が7年ぶりに帰還
尖閣諸島沖で中国漁船が海上保安庁の巡視船に衝突
東日本大震災発生



宮岡氷川神社前遺跡出土の土偶(写真提供：北本市教育委員会)



中山道分間延絵図(本宿付近)(写真提供：東京国立博物館 TNM image Archives)



町制施行の旗行列(昭和34年)(写真提供：北本市教育委員会)

History of Kitamoto

Settlements were first established in Kitamoto about 20 thousand years ago. After the 3rd century AD, many settlements and mounded tombs were made. In the 8th century, Buddhism was introduced. From the 12th to the 19th century, warriors took an active part in the city's development. In those days, commodities and culture came in and out from Kitamoto through the roads and waterways. In 1889, Nakamaru Village and Ishito Village were established. In 1943, the two villages merged, and Kitamoto-juku Village was established. In 1959, Kitamoto-juku Village became Kitamoto Town, and then Kitamoto City in 1971.

北本のあゆみ

HISTORY of KITAMOTO

人々が暮らし始めた

原始・古代

北本の地に人々が住み始めたのは約2万年前。旧石器時代の人々が獲物を追いかけてきた跡が、下宿遺跡や提灯木山遺跡で発見されています。縄文時代になると高台にムラができました。デーンノタメ遺跡からは全国的にも珍しい漆塗土器が、宮岡氷川神社前遺跡からは耳飾りや土偶などマツリの道具が出土しました。古墳時代になると荒川沿岸に集落や古墳が多く造られました。

奈良・平安時代には仏教が伝わり、下宿遺跡からは仏像の描かれた紡錘車が、讃岐谷遺跡からは「奉真願」と記した墨書土器が出土しています。

武士が活躍した中世・交通の要衝となった

中世・近世

鎌倉時代には、石戸氏の館と思われる堀ノ内館が構えられました。大宮館跡からは中国製の高価な青磁が出土しました。戦国時代には石戸城が築かれ、上杉氏と北条氏の攻防の前線基地とされました。

江戸時代には、中山道の宿場が鴻巣へ移転。「本宿」という地名はその名残です。2カ所に立場(休憩所)が設けられ、街道を行き交う人でにぎわいました。荒川には3カ所に河岸場が設けられ、江戸と結んで物資や文化が行き交いました。

村から町へ、そして北本市へ

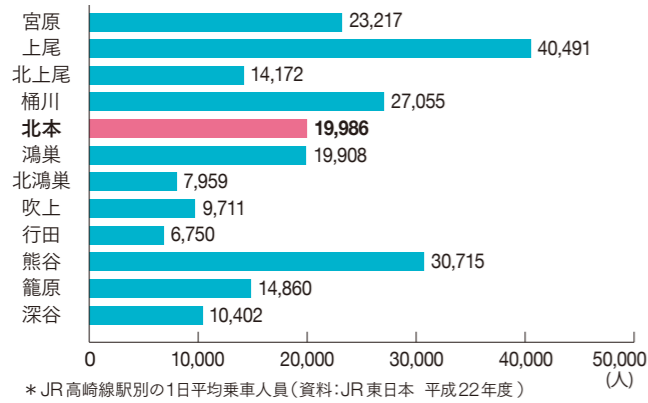
明治〜現在

明治22年、合併により14の村が中丸村と石戸村の2村となりました。

昭和初期には、石戸村でトマトの栽培が盛んになり、組合により製造されたトマトクリームは御大礼博覧会で日本一となりました。

昭和18年には中丸村と石戸村が合併し、北本宿駅の駅名から北本宿村となりました。昭和30年代以降には人口が急増。同34年に町制施行し北本町に、同46年には市制を施行して「北本市」が誕生して現在に至ります。

JR高崎線駅別1日平均乗車客数

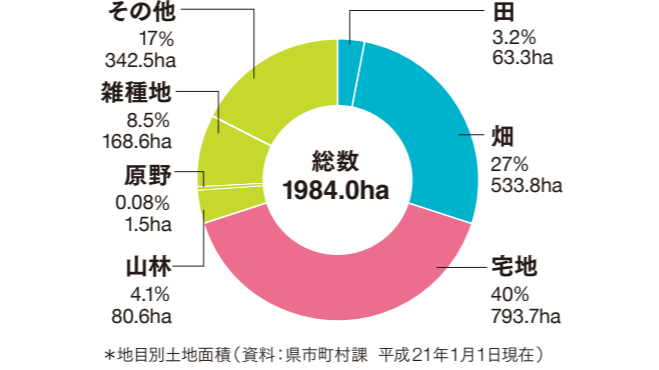


19,986人

1日平均約2万人の人が北本駅から乗車しています。

JR高崎線は身近な市民の足。全市民の1/3弱の人が、通勤や通学、その他の用事で日常的に駅を利用していることになります。乗車客数と降車客数をほぼ同数とすると、1日約4万人の人々が北本駅で乗り降りしています。平成24年春の関東グリーコ北本ファクトリーの稼働開始に伴い、さらに利用客が増加するものと思われます。

地目別土地面積

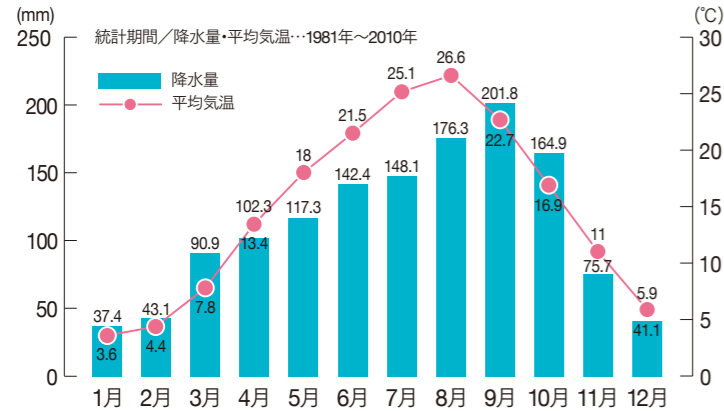


約40%ずつ

宅地と同じくらい緑地があり、緑あふれる住環境です。

土地の利用は、宅地の割合が約40%と一番多いですが、田・畑・山林原野などを合わせた緑の土地もほぼ同じくらい残っています。雑種地(スポーツ広場など)、その他(寺社の境内や保安林、道路、公園など)まで含めると約60%と、緑の環境に恵まれています。北本市より北に向かうと山林原野が増える一方、都心に近づく平野部では田畑や緑地が少なくなる傾向があります。宅地と緑豊かな土地がバランスよく配分された北本市は、住みよい環境といえるでしょう。

平均気温と降水量



14.8°C、1,346.0mm

過去30年間を平均した年間平均気温は14.8°C、降水量1,346.0mmで、それぞれ東京の16.3°C、1,528.8mmに比べると若干低めですが、冬の平均気温が氷点下になることはなく、適度な降水量があり、比較的過ごしやすい気候といえるでしょう。世界に目を向けると、緯度がほぼ同じアメリカ・ラスベガスの過去30年間の平均気温20.3°C、ロサンゼルス17.3°Cより低く、サンフランシスコが14.5°Cで北本とほぼ同じです。同様にニューヨーク13.2°C、アテネ18.8°C、北京12.9°Cとなっています。

*月別平均気温と降水量
(資料:気象庁熊谷地方気象台 昭和56~平成22年の平均)

長い 642.05m

北本市荒井四丁目と吉見町江和井を結ぶ荒井橋の長さです。

荒井橋は、北本市と吉見町を結ぶ県道33号線の道路橋。現在の橋は昭和57年に竣工しました。前身は「荒井の渡し」。初代の荒井橋は昭和8年に架けられた木製の冠水橋ですが、13年の荒川の洪水によって流出。当時の石戸村長が私費を投じて新たな冠水橋を架けました。



長い 約1.3km

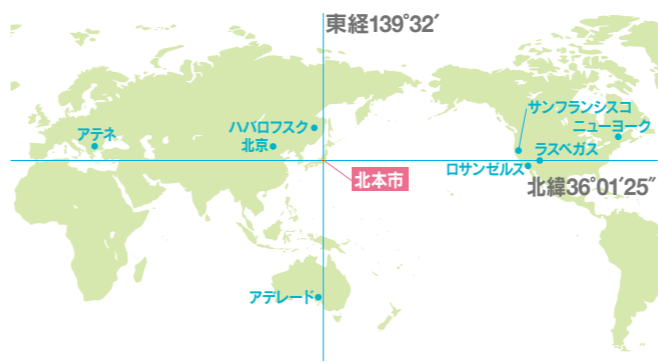
高崎線沿いの北本中央緑地の林は沿線で唯一の雑木林です。

市の中央部を南北に走るJR高崎線の両側を、それぞれ20mの幅で、延長約1.3km、面積3.2haの緑地帯として市が保全整備しています。北本を象徴する緑地でもあります。

※ JR高崎線軌道敷地外より撮影



北本の位置



東経139度32分、北緯36度01分25秒

北本市は、経度はオーストラリアのアデレードの西側、緯度はラスベガスとほぼ同じで、サンフランシスコ・北京・アテネの南に位置しています。

日本の中では、埼玉県東部のほぼ中央に位置し、東京日本橋から約45km。北部および東部を鴻巣市、南部を桶川市、西部を比企郡吉見町、南西部を比企郡川島町と接しています。面積19.84km²で、市域の大部分が大宮台地上のほぼ平坦な地形です。西に荒川、東に赤堀川が流れ、市の中央部を国道17号線やJR高崎線が縦断し、これに沿って市街地が形成されています。

(資料:気象庁)

高い 海拔32m

標高が一番高い場所は高尾付近です。

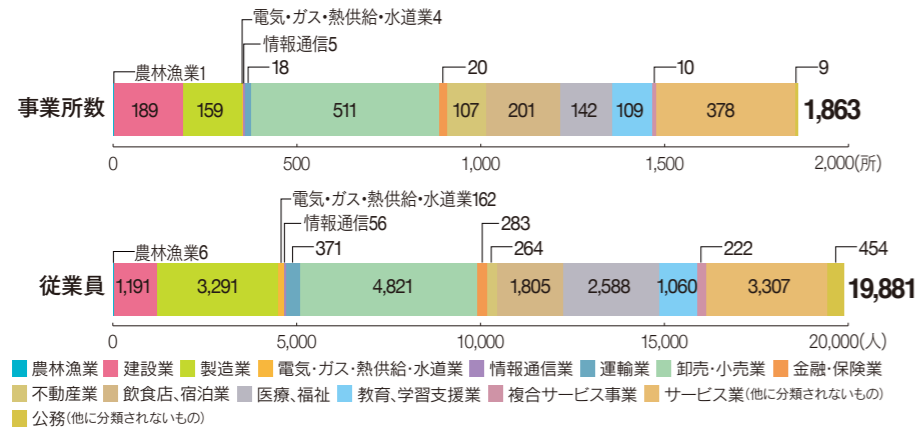
大宮台地の最高地点に位置する北本市の中でも一番標高が高い場所は、荒川の河岸段丘になっている高尾付近です。ここから東に向かってゆるやかな下り坂となり、市役所の位置が海拔24.05mです。荒川(旧和田吉野川や旧入間川)の河床との標高差が大きいため、洪水の危険性が少なく、古くから定住に適していました。



No.1 これが北本の一番!

ふだん何気なく見過ごしている日常の中に、「ポイント」は「スゴイ」記録がかかれています。北本の「ナンバール」や「オンリー」を探してみませんか。住み慣れたまちも、視点を絞って見れば、おもしろいものがいっぱい発見できるかも。

産業大分類別事業所数及び従業者数



19,881人

市内の事業所で働く従業者数は2万人弱です。20歳～60歳までの人口の約半数が市内の事業所で働いています。業種別では卸売・小売業が最も多く、製造業、医療・福祉関係と続きます。企業誘致等により、市内に働く場が増加することが望まれています。

※産業大分類別事業所数及び従業者数 (資料：埼玉県統計課 平成18年10月1日現在)

農産物収穫量ランキング

プラム収穫量ランキング			落花生収穫量ランキング			そば収穫量ランキング			キャベツ収穫量ランキング			トマト収穫量ランキング		
順位	名称	収穫量 (t)	順位	名称	収穫量 (t)	順位	名称	収穫量 (t)	順位	名称	収穫量 (t)	順位	名称	収穫量 (t)
1位	美里町	40	1位	飯能市	5	1位	加須市	34	1位	深谷市	4,620	1位	深谷市	3,499
2位	北本市	37	2位	深谷市	5	2位	久喜市	33	2位	本庄市	1,013	2位	加須市	2,072
3位	桶川市	30	3位	北本市	5	3位	秩父市	31	3位	上里町	898	3位	さいたま市	1,385
4位	蓮田市	30	4位	日高市	4	4位	三芳町	24	4位	和光市	696	4位	本庄市	1,173
5位	久喜市	20	5位	さいたま市	3	5位	狭山市	16	5位	熊谷市	630	5位	上里町	1,003
6位	横瀬町	11	6位	川越市	3	6位	北本市	12	6位	さいたま市	542	6位	川島町	707
7位	伊奈町	10	7位	加須市	3	7位	熊谷市	9	7位	川越市	430	7位	春日部市	593
8位	秩父市	6	8位	鶴ヶ島市	3	8位	深谷市	8	8位	北本市	427	8位	熊谷市	532
9位	深谷市	5	9位	狭山市	3	9位	杉戸町	8	9位	加須市	240	9位	川越市	462
10位	坂戸市	5	10位	桶川市	3	10位	本庄市	7	10位	桶川市	234	10位	越谷市	449
												11位	白岡町	399
												12位	北本市	385

※市町村別項目別農産物収穫量ランキング(資料：農林水産省ホームページ 平成22年)

プラム2位、落花生3位、そば6位、キャベツ8位、トマト12位

収穫量が県内上位にランクインしている農産物です。

トマトのまちというイメージの強い北本市ですが、トマトの収穫量は県内順位12位。ただし、トマトを総面積当たりの作付面積の割合で見ると北本市は0.20%。深谷市が0.28%、加須市0.22%、さいたま市0.07%で、トマト畑の割合はベスト3にひけをとらないどころか3位のさいたま市よりはるかに多いことがわかります。一方、プラムの収穫量は県内2位を誇ります。次いで落花生が3位、「範頼そば」で知られるそばが6位、キャベツも8位と健闘しています。

多い 地場産野菜の種類

北本産の野菜を一番多く販売しているのは「桜国屋」です。

地場物産館「桜国屋」は、地元で採れた新鮮な野菜や季節の果物、手作りの加工品や北本ならではの物品を販売しています。敷地内には、北本そば打ち愛好会による「北本さんた亭」があり、地場産そば粉100%のそばを提供。菜味のネギやてんぶらの具材もすべて地場産にこだわっています。



高い 樹高29m

市内で一番高い桜の木は、北本自然観察公園のエドヒガンザクラです。

自然遊歩道沿いにあり、高さ29m、根回り3.2mと市内で一番大きな桜。急斜面のため樹形は非対称形となっています。樹齢約200年。毎年3月末ごろに満開になります。北本市指定天然記念物。



多い 約30種

高尾さくら公園には約30種200本の桜が植えられています。

姉妹都市の会津坂下町をはじめとして全国各地から寄贈された「市民のふるさとの桜」などたくさんの種類の桜が植えられ、品種とともに寄贈者名が記されています。3月初旬から4月末まで、彩りや趣の違うさまざまな桜が楽しめます。



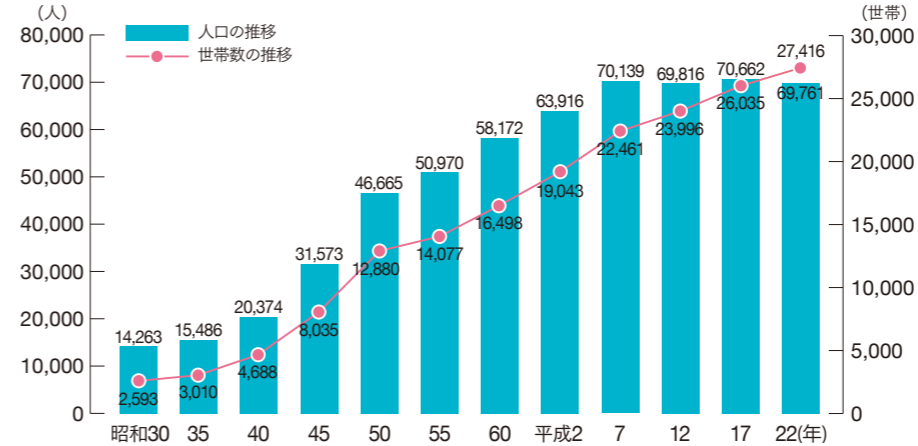
広い 106,108m²

北本で一番広い市営の公園は「北本総合公園」です。

平成6年に完成したスポーツ・レクリエーション活動の拠点施設。大型のコンビネーション遊具などを設置する広場の他、テニスコート、野球場、多目的広場などがあり、園内の池では釣りや季節の花も楽しめます。



人口・世帯数の推移



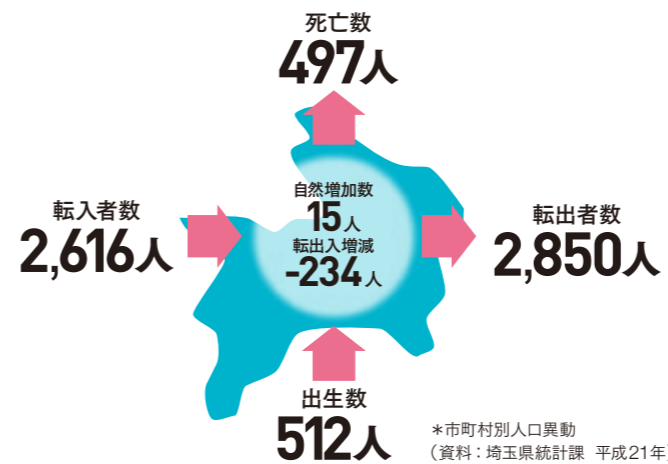
69,761人 27,416世帯

平成22年の人口は、全国809市区の中で409位と、ほぼ真ん中です。

日本の中で人口規模がほぼ同じなのは、千葉県銚子市、東京都武蔵村山市、兵庫県丹波市などです。昭和30年からの推移を見てみると、人口は約5倍、世帯数は10倍以上に増加しました。

※人口・世帯数の推移 (資料：住民基本台帳・外国人含まず 各年10月1日現在)

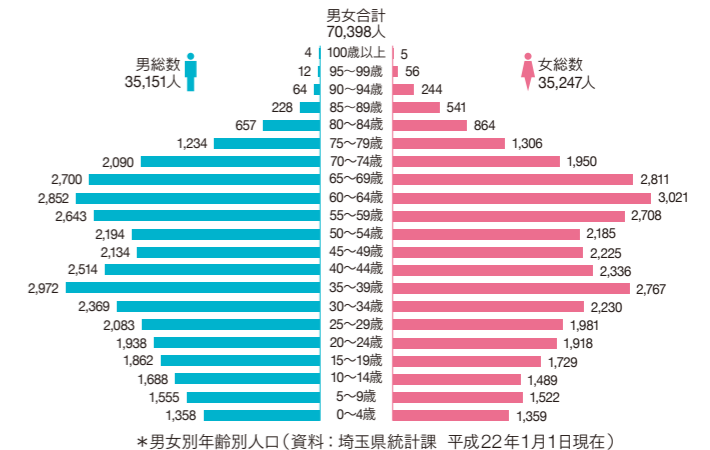
人口動態



平成21年の人口の増減は、自然増減15人、転出入-234人でした。

近隣の市では、久喜市が北本市と同じく転入より転出が多く、桶川市や鴻巣市では逆に転入者の方が多くなっています。環境のよさ、暮らしやすさをさらにアピールしたいものです。

年齢別男女別人口



30代後半と60代

働き盛りの年代と定年前後の年代に人口のピークがあります。

この先、ますます高齢化が進むと思われます。一方、30代以下が逆階段状に減少して少子化が進んでいるのは、全国的な傾向と同様です。子育てしやすいまちづくりに、さらに力を入れる必要があるでしょう。

行政サービス度の総合ランキング		人口規模別総合ランキング (5万人以上10万人未満)	
順位	自治体	順位	自治体
1	三鷹市(東京都)	1	清瀬市(東京都)
2	千代田区(東京都)	2	加須市(埼玉県)
3	清瀬市(東京都)	3	豊明市(愛知県)
4	荒川区(東京都)	4	和光市(埼玉県)
5	北区(東京都)	5	日光市(栃木県)
...	...	6	碧南市(愛知県)
38	磐田市(静岡県)	7	志木市(埼玉県)
39	東温市(愛媛県)	8	笛吹市(山梨県)
40	北本市	9	北本市
41	福井市(福井県)	10	長浜市(滋賀県)
42	さいたま市(埼玉県)		

*「行政サービス度」の総合ランキング(全国順位・人口規模別順位)
(資料：全国市区の行政比較調査データ集 平成20年度)

全国40位(806市区中)

平成20年度の行政サービス度は、全国806市区中40位です。

「子育て環境」「高齢者福祉」「教育」「公共料金等」「住宅・インフラ」の5項目の評価を総合した行政サービス度調査で、全国783市と東京23区の合計806市区中40位となりました。調査は2年ごとに実施され、平成16年度は434位、平成18年度は137位でしたから、本市の行政サービス度が飛躍的に向上してきていることがわかります。

全国9位(人口5万~10万の261市区中)

人口規模別ランキングでは、人口5万人以上10万人未満の全国の自治体の中で、堂々9位に入りました。分野別ランキングでは「教育」が全国13位、個別ランキングでは国民健康保険料の低さが全国9位、また、全校で土曜日に補習を実施する自治体17市区の1つにも数えられました。

1位(人口規模別県内18市中)

人口5万~10万人の県内の市の中で行政の透明度、効率化・活性化度は1位です。

「透明度」「効率化・活性化度」「市民参加度」「利便度」を評価する行政革新度ランキングで、透明度は全国60位(県内5位)。効率化・活性化度は全国77位(県内2位)。人口5万人以上10万人未満の県内の市の中では、透明度と効率化・活性化度が1位、総合順位も久喜市に次いで2位となりました。

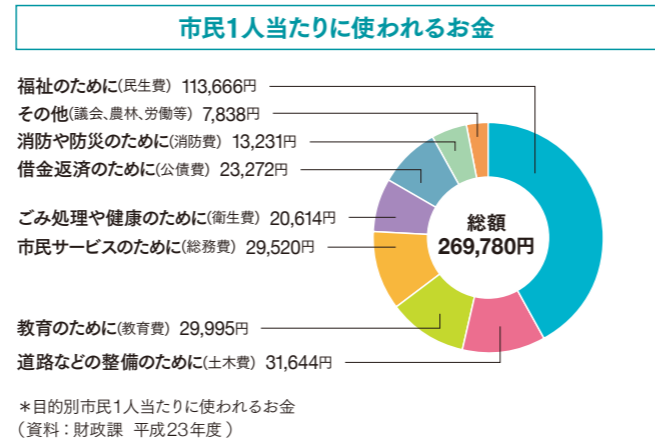
全刑法犯・市町村別犯罪率ランキング					
市町村	県内順位	犯罪率	市町村	県内順位	犯罪率
蕨市	1	25.33	志木市	38	13.12
八潮市	3	21.44	和光市	39	13.09
本田市	14	15.33	北本市	47	11.99
吉川市	19	14.64	飯能市	48	11.94
東松山市	22	14.52	行田市	50	11.69
鳩ヶ谷市	23	14.51	桶川市	54	11.32
鶴ヶ島市	31	13.81	蓮田市	59	9.95

*人口1千人当たりの全刑法犯・市町村別犯罪率
(人口6万~8万人台の市町村を抜粋)
(資料：くらし安全課 平成22年)

11.99%(県内64市町村中47位)

1千人当たりの刑法犯犯罪率の県内順位は47位です。

犯罪率の低さも暮らしやすいまちの指標の一つです。人口規模が同じくらいの市の中で比べても下位に位置しています。



約27万円

平成23年度予算のうちで市民1人当たりに使われるお金です。

目的別に見るとグラフのようになり、福祉のために使われるお金が多いことがわかります。一方、市民1人当たりが負担する市税は115,152円です。

1人当たりの図書購入費ランキング					
順位	市町名	円	順位	市町名	円
1	鳩山町	381	36	さいたま市	137
2	秩父市	377
3	嵐山町	317	40	上尾市	134
4	三芳町	305
5	宮代町	302	42	熊谷市	132
...
18	志木市	225	54	所沢市	108
19	北本市	218	60
20	蕨市	210	60	川越市	71

*人口1人当たり図書購入費(上位及び主要な市町村を抜粋)
(資料：平成23年度埼玉の公立図書館調査票)

218円(県内64市町村中19位)

市立図書館の図書購入費は、県内では上位です。

平成22年度の県内市町村の図書館の図書購入費は、県平均155円に対して北本市は218円。これは順位でいうと64市町村中19位となり、県内では上位に位置しています。ちなみに1位は鳩山町、18位は志木市、20位は蕨市でした。

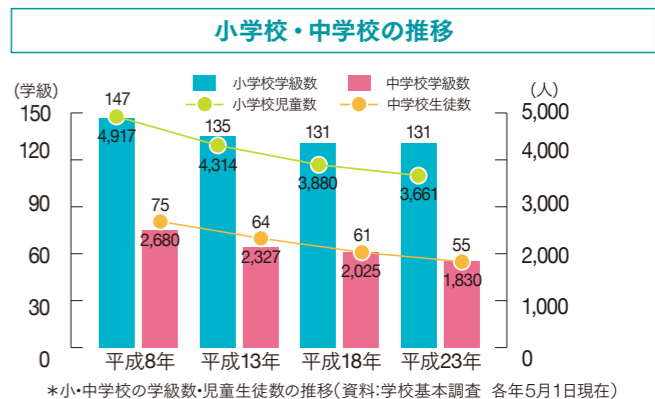
市町村別都市公園整備箇所数ランキング					
順位	都市名	箇所数	順位	都市名	箇所数
1	さいたま市	872	11	本庄市	108
2	川口市	339	11	吉川市	108
3	草加市	264	13	坂戸市	104
4	川越市	240	14	深谷市	88
5	春日部市	224	14	戸田市	88
6	所沢市	192	14	北本市	88
7	鴻巣市	153	17	越谷市	86
8	上尾市	124	18	東松山市	84
9	熊谷市	119	19	久喜市	79
10	加須市	116	20	八潮市	67

*市町村別都市公園整備箇所数(上位20位までを抜粋)
(資料：埼玉県の都市公園2011 平成22年3月31日現在)

88カ所(県内64市町村中14位)

市民の憩いの場、都市公園の数は県内で14位です。

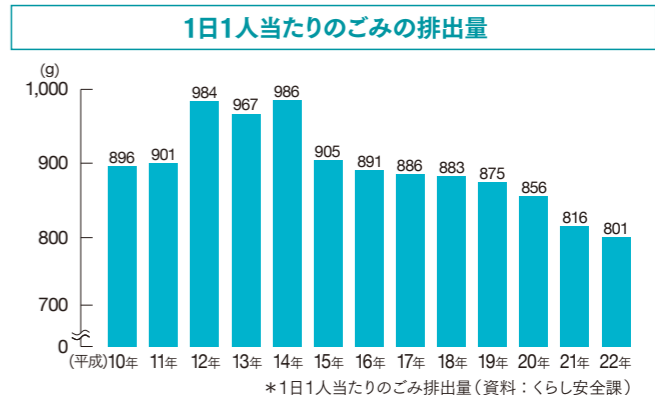
都市計画区域内に整備された都市公園の数です。現在は2カ所追加になり90カ所となっています。県立の北本自然観察公園をはじめ、もともと緑豊かな環境を誇る北本市ですが、生活に密着した憩いの場もたくさんあることがわかります。



小学生3,661人/中学生1,830人

少子化により児童・生徒数は減少してきています。

小・中学校ともに児童・生徒数は年々減少してきており、平成8年と比べると約70%となっています。この減少傾向は全国的なもので、隣接する鴻巣市・桶川市も同様です。さらなる子育て支援や学校教育の充実が望まれます。



801g(全国平均994g)

平成22年に、市民1人当たりが1日に排出したごみの量です。

平成10年からのデータの推移を見ると、14年をピークに徐々に減少傾向にあることがわかります。市民の環境に対する意識が年々高まってきているといえるでしょう。ちなみに平成21年度の全国平均994gとくらべると、北本市民の意識の高さが見えてきます(ただし、市町村により分別・収集方法は異なります)。

地名の由来

古くから呼び習わされている北本の地名には、その土地ならではの歴史や風土、特徴などに由来するものがたくさんあります。地名をたどれば、祖先の暮らしが見えてくるかもしれません。

- 宮岡** 氷川神社、厳島神社、須賀神社の三社が集まっていること由来。
- 二ツ家** その昔、人家が2軒くらいしかなかったことに由来。長く「ふたつえ」と呼ばれていた。
- 中丸** 「丸」は「山」の意味。山岳だけではなく、台地、丘陵、林、あるいは地区画を意味する場合もある。
- 堀ノ内** 堀の内は一般的に、城や館の跡につけられる地名。石戸左衛門尉の城址に由来すると思われる。
- 高尾** 高いところを意味するタツコがなまって変化したもので、「高尾」はその当て字。もとは田高(たこう)村といった。
- 石戸** 古くは石戸左衛門尉の在所で石戸郷とあった。「石戸」の意味は「石津」で、津は船着き場のこと。
- 北本宿** 元の鴻巣宿があったことから本鴻巣村となり、本宿村と改称したが、同じ北足立郡の中にもう1カ所、本宿村(現・さいたま市)があったため「北本宿」となった。
- 東間** もとは鴻巣領の東新田とよばれていた。鴻巣の東方に位置することに由来。
- 宮内** 神社のあるところという意味。日本武尊が建立したと伝わる氷川神社に由来。
- 深井** 深い井戸があったことに由来。戦国時代には深井氏が統治した土地。

※参考文献：『埼玉県地名誌』『北本地名誌』『ふるさと北本』


古い約4,800年前

デーノタメ遺跡から出土した漆塗り土器のつくられた年代です。

下石戸下のデーノタメ遺跡から発掘された漆塗り土器は、約4,800年前の縄文時代中期のもの。黒漆を下地に赤漆で文様を描く色鮮やかな土器です。漆塗り土器は破片ながらも300以上見つかり、これだけまとまって出土するのは全国的にも珍しいといわれます。

「デーノタメ」とは、かつてこの地に所在していた湧水池の呼称で、この水源の周りに縄文人が暮らしを営んでいました。

(写真提供：北本市教育委員会)




古い1233年

東光寺の阿弥陀三尊種子板石塔婆のつくられた年です。

全国では4番目に古い板石塔婆です。貞永二年(1233)の銘をもち、高さは160cmを測ります。正面に梵字で阿弥陀三尊と「光明遍照十方世界 念佛衆生 摂取不捨」の偈を刻んでいます。もとは蒲ザクラの根元に置かれていました。現在は、東光寺境内の収蔵庫に保管されています。県指定文化財。国認定重要美術品。

(写真提供：北本市教育委員会)



北本市民憲章

わたくしたちは、北本市民であることに誇りと責任をもち、
緑にかこまれた健康な文化都市をきずくため、ここに市民憲章を定めます。

わたくしたちは

郷土を愛し 自然を大切にします

健康を願い 思いやりの心を育てます

教養を高め きまを守ります

(昭和56年11月3日制定)

北本市児童憲章

北本っ子 未来へのちかい

わたしたちは、緑にかこまれた北本の未来のために、明るく、たくましく、自分の道を進んでいくことを約束し、ここに「北本っ子 未来へのちかい」を定めます。

いのち・健康 すべての命を大切にし、元気に自分らしく生活します。

夢・希望 夢をかなえるため、未来に向かって挑戦します。

友情・思いやり 相手の気持ちを考え、友だちの輪を広げていきます。

感謝・礼儀 感謝の心を持ち、大きな声であいさつをします。

自然・ふるさと 緑いっぱい、ふれあいいっぱいの北本をつくります。

(平成13年10月25日制定)

姉妹都市

福島県河沼郡会津坂下町

会津坂下町は、会津西部の中心都市で面積91.65km²、人口約1万7千人の美しい自然環境に恵まれ、歴史に培われた文化財や祭りを数多く残すまちです。北本市制20周年記念事業の一つとして平成3年10月19日に姉妹都市となりました。



会津坂下町の奇祭「大俵引き」

災害時相互応援協定締結都市

福島県河沼郡会津坂下町、千葉県富津市、茨城県牛久市、新潟県十日町市



市章

北本の2字を図案化したもので、市勢の円満な発展と繁栄を願う意味から丸く組み合わせ、市の融和を表したものです。(昭和40年8月1日制定)



市の木／桜

国の天然記念物に指定されている石戸蒲ザクラや桜の名所の城ヶ谷堤など、市民に親しまれていることから指定されました。(昭和52年11月3日制定)



市の花／菊

多年草で北本の風土になじみ、市民から親しみ愛され、そして、古くから北本の特産品として知られていることから指定されました。(昭和52年11月3日制定)



イメージキャラクター／
とまちゃん

北本トマトのブランド化を図ることを目的に公募で選出されたイメージキャラクターです。



左から、小尾富士雄教育長、石津賢治市長、下田正幸副市長

Administration

For the future town planning, it is required to enhance transparency of public administrative management, and to establish a structure and system for the participation of citizens. The city is promoting cooperation with its citizens in order to realize the future image of a "healthy and cultural city surrounded by greenery." Giving priority to the improvement of services provided to citizens, it promotes efficient public administration management, and tries to provide administrative information openly.

Assembly

The City Assembly, which represents the citizens, is an opportunity to reflect citizens' hopes and needs in the city administration. It consists of 20 representatives and holds regular sessions and extraordinary sessions. The individual representatives belong to three standing committees, carrying out investigation activities and assessments in the specific field assigned to each committee.

**市民のまちづくりへの
参加・参画と
市民サービスの向上**

これからのまちづくりには、市民参加・参画、市民と行政の協働が不可欠であり、そのためには、行政運営に関する透明性を高め、市民参加・参画の仕組みと体制づくりに努める必要があります。

市では、「緑にかこまれた健康な文化都市」を将来都市像に掲げ、さまざまな分野において、市民の皆様との協働を進めていきます。

また、市民サービスの向上を第一に、長期的な視野に立った行政改革、さらに、広報紙やホームページ等を通じた市政情報の発信にも努めています。

行政・議会

Administration / Assembly



左から、加藤勝明議長、島野和夫副議長



議会風景